安曇野市の埋蔵文化財第19集

平成30年度
安曇野市埋蔵文化財調査報告書

2020. 3

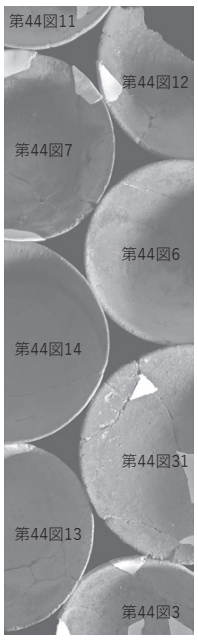
安曇野市教育委員会

安曇野市の埋蔵文化財第19集

平成30年度
安曇野市埋蔵文化財調査報告書

2020. 3

安曇野市教育委員会



表紙写真　　追堀遺跡出土土師器

裏表紙写真　　追堀遺跡工事立会Ｃ地点

例言

1　本書は、長野県安曇野市で平成30年度に実施した埋蔵文化財保護事業の報告書である。

2　本書の編集は、安曇野市教育委員会教育部文化課文化財保護係が行った。執筆は土屋和章が担当し、山下泰永が統括した。

3　本書で使用した主な引用・参考文献は、巻末に一括して掲載した。

4　本書掲載の調査に関する出土遺物及び事務書類、記録類は安曇野市教育委員会が保管している。

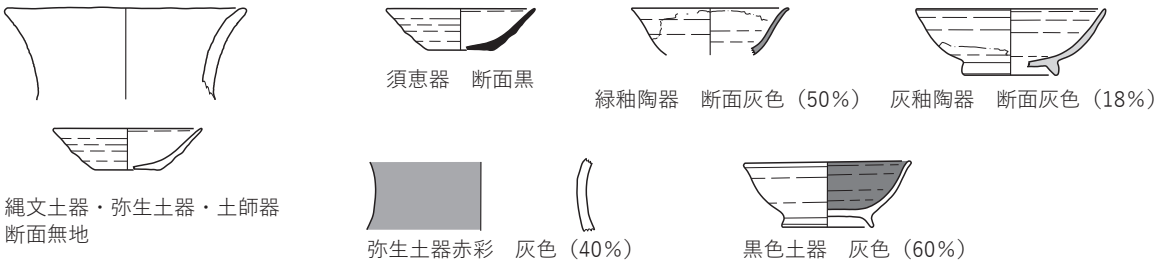
5　調査全般にわたり以下の方々から、ご指導・ご協力をいただきました。（敬称略・五十音順）
大澤慶哲、白鳥章、原明芳、百瀬新治、山田真一

凡例

1　調査及び本書での遺構名は、次の略号を使用している。
SI：竪穴建物跡

2　遺物の法量表示について、観察表中では次のように記載した。
口径等の「実 / 復」欄　　実：残存箇所を計測した場合　復：図上復元した場合
器高の「完 / 残」欄　　完：完形資料を計測した場合　残：残存高を計測した場合

3　本書実測図で、遺物は次の基準を準用し表現した。また、縮尺は各図に示した。



4　土器の記載では、器形について「形土器」の表記を省略した。
例　甕形土器：甕　　高坏形土器：高坏

5　石器石材等の記載では、慣例に従い「黒曜岩」を「黒曜石」と表記した。

6　土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』に準じた。

7　本書では、平成17年（2005）10月１日の町村合併より前の旧郡名・旧町村名について「旧」を省略し、「東筑摩郡」、「明科町」のように表記した。

8　本書掲載の地形図は個別の記載のない場合、安曇野市都市計画基本図（１/2,500）を基図とし、調製したものである。

9　文献引用等に際し、各機関の名称を以下のように省略した。
埋蔵文化財センター：埋文セ　　教育委員会：教委　　編纂委員会：編纂委

目次

例言・凡例
目次・挿図目次・挿表目次
第１章　平成30年度埋蔵文化財保護事業 …… 1
　1　埋蔵文化財保護事業の概要 …… 1
第２章　試掘調査 …… 13
　1　なかじま遺跡 …… 13
　2　明科遺跡群栄町遺跡 …… 16
　3　明科遺跡群栄町遺跡 …… 19
　4　新林遺跡 …… 22
　5　栗の木下遺跡 …… 25
　6　光遺跡群北村遺跡 …… 28
　7　光遺跡群北村遺跡 …… 31
　8　柏原遺跡 …… 34
　9　等々力町巾上巾下遺跡 …… 39
　10　明科遺跡群栄町遺跡 …… 42
第３章　工事立会 …… 45
　1　小瀬幅遺跡 …… 45
　2　追堀遺跡 …… 47
　3　藤塚遺跡 …… 55
引用・参考文献 …… 59
調査報告書抄録

挿図目次

第１図　平成30年度発掘調査等位置図（北部）…… 2
第２図　平成30年度発掘調査等位置図（南部）…… 4
第３図　平成30年度発掘調査等位置図（穂高駅周辺）…… 6
第４図　平成30年度発掘調査等位置図（明科駅周辺）…… 7
第５図　なかじま遺跡試掘位置図 …… 13
第６図　なかじま遺跡調査区配置図 …… 14
第７図　なかじま遺跡土層概念図 …… 14
第８図　栄町遺跡試掘位置図 …… 16
第９図　栄町遺跡調査区配置図 …… 17
第10図　栄町遺跡土層概念図 …… 17
第11図　栄町遺跡試掘位置図 …… 19
第12図　栄町遺跡トレンチ配置図 …… 20
第13図　栄町遺跡土層概念図 …… 20
第14図　新林遺跡試掘位置図 …… 22
第15図　新林遺跡トレンチ配置図 …… 23
第16図　新林遺跡セクション図 …… 23
第17図　栗の木下遺跡試掘位置図 …… 25
第18図　栗の木下遺跡トレンチ配置図 …… 26
第19図　栗の木下遺跡土層図 …… 26
第20図　北村遺跡試掘位置図 …… 28
第21図　北村遺跡トレンチ配置図 …… 29
第22図　北村遺跡土層概念図 …… 29
第23図　北村遺跡試掘位置図 …… 31
第24図　北村遺跡トレンチ配置図 …… 32
第25図　北村遺跡土層概念図 …… 32
第26図　柏原遺跡試掘位置図 …… 34
第27図　柏原遺跡トレンチ配置図 …… 35
第28図　柏原遺跡土層概念図 …… 35
第29図　柏原遺跡既出土器 …… 36
第30図　柏原遺跡既出土器写真 …… 37
第31図　等々力町巾上巾下遺跡試掘位置図 …… 39
第32図　等々力町巾上巾下遺跡トレンチ配置図 …… 40
第33図　等々力町巾上巾下遺跡土層概念図 …… 40
第34図　栄町遺跡試掘位置図 …… 42
第35図　栄町遺跡トレンチ配置図 …… 43
第36図　栄町遺跡トレンチ概要図 …… 43
第37図　小瀬幅遺跡工事立会位置図 …… 45
第38図　小瀬幅遺跡土層概念図 …… 46
第39図　小瀬幅遺跡出土土器 …… 46
第40図　追堀遺跡工事立会位置図 …… 47
第41図　追堀遺跡土層観察地点配置図 …… 48
第42図　追堀遺跡土層概念図 …… 48
第43図　土師器坏 A 法量分布 …… 49
第44図　追堀遺跡出土土器１ …… 50
第45図　追堀遺跡出土土器２ …… 51
第46図　追堀遺跡出土土器写真 …… 52
第47図　藤塚遺跡工事立会位置図 …… 55
第48図　藤塚遺跡調査区位置図 …… 56
第49図　藤塚遺跡遺構概要図 …… 56
第50図　藤塚遺跡出土土器 …… 57

挿表目次

第１表　平成30年度発掘調査等一覧 …… 8
第２表　柏原遺跡既出土器観察表 …… 37
第３表　器種分類 …… 49
第４表　追堀遺跡出土土器観察表 …… 53
第５表　藤塚遺跡出土土器観察表 …… 57

第１章　平成30年度埋蔵文化財保護事業

１　埋蔵文化財保護事業の概要

（１）事務局の体制

平成30年度の安曇野市における埋蔵文化財保護事業は、安曇野市教育委員会教育部文化課文化財保護係が担当した。体制は次のとおりである。

事務局　安曇野市教育委員会教育部　文化課

那須野雅好（文化課長）、山下泰永（文化課課長補佐兼文化財保護係長）

土屋和章、横山幸子、佐藤眞弓（以上、文化財保護係）

作業参加　田多井智恵、細尾みよ子、宮下智美（以上、平成 30 ～令和元年度）、

白鳥章（平成30年度）、望月裕子（令和元年度）

（２）地理的環境と遺跡の立地

安曇野市は平成17年（2005）10月１日に豊科町、穂高町、三郷村、堀金村、明科町の５町村が合併して誕生した市で、長野県のほぼ中央部に位置し、北は大町市、松川村、池田町、生坂村、筑北村、南は松本市に隣接する。地形的には松本盆地の中ほどにあり、西は飛騨山脈、東は筑摩山地に囲まれる。松本盆地は、縁辺部から流れる複数の河川が運搬した堆積物が形成している。

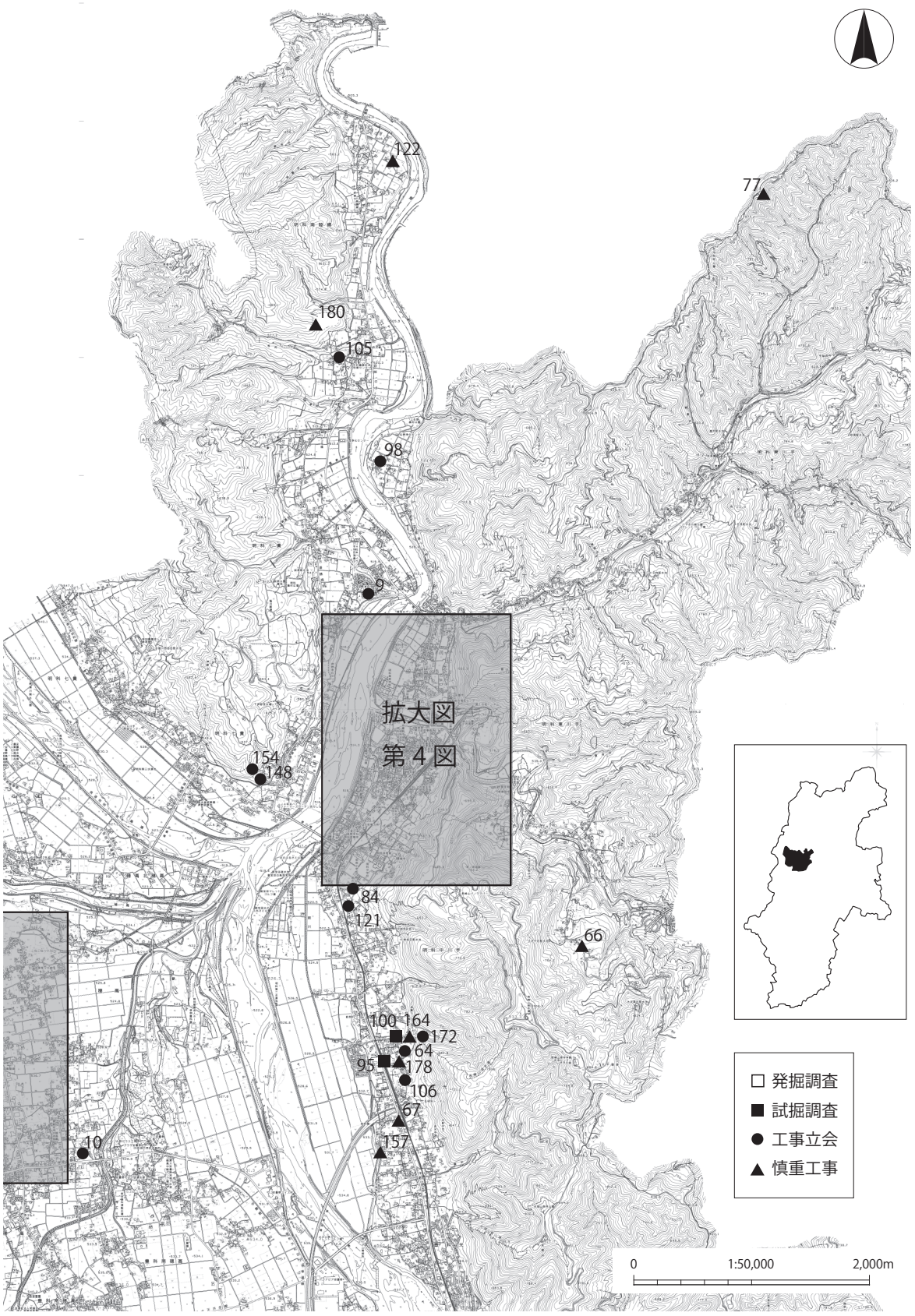
安曇野市内に所在する遺跡は、現在398箇所が周知の埋蔵文化財包蔵地となっており、縄文時代早期から現代に至る。縄文時代の遺跡は、主として飛騨山脈山麓の扇状地扇頂付近及び犀川以東の河岸段丘上に多く立地しており、過去の調査から、縄文時代中期に隆盛を極めたことがわかる。弥生時代になると遺跡数は減少し、集落の立地も扇状地扇央及び扇端へ移る。生業形態の変化が遺跡立地の変化に影響している可能性があり、この集落立地は基本的に現代まで踏襲されている。安曇野市では、前・中期の古墳は現在までに確認されておらず、後期の群集墳が飛騨山脈山麓や明科地域に分布する。奈良時代以降は、前時代までの立地を踏襲するように犀川以西の扇端と犀川以東の河岸段丘上に集落が営まれるなか、明科地域では明科遺跡群明科廃寺と呼ばれる古代寺院の存在が確認されている。また、豊科田沢の山間部一帯から隣接する松本市域にかけて須恵器窯群が築かれた。

（３）平成30年度の概要

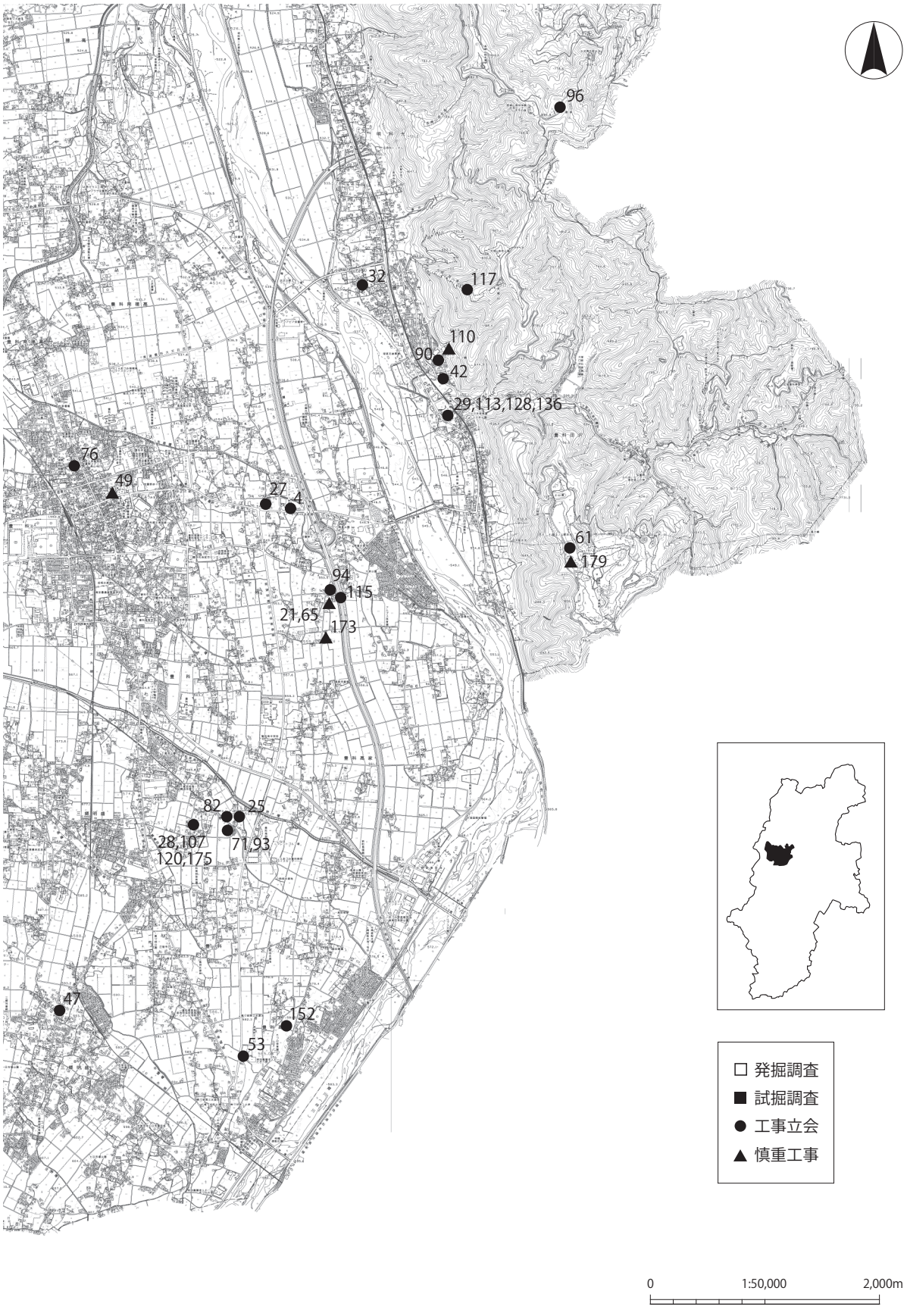
平成30年度の安曇野市における発掘調査等の一覧は第１表に示すとおり、全180件であった。このうち安曇野市教育委員会が主体となって実施した発掘調査等は合計179件である。内訳は、発掘調査２件、試掘10件、工事立会121件、慎重工事46件となっている。それぞれの位置は、第１～４図に示す。試掘調査及び工事立会の詳細は、第２・３章に記載した。発掘調査２件については、別途報告する予定である。

また、安曇野市教育委員会が調査主体となった埋蔵文化財保護事業の他に、國學院大學文学部考古学研究室が穂高古墳群Ｆ９号墳の学術発掘を実施している。

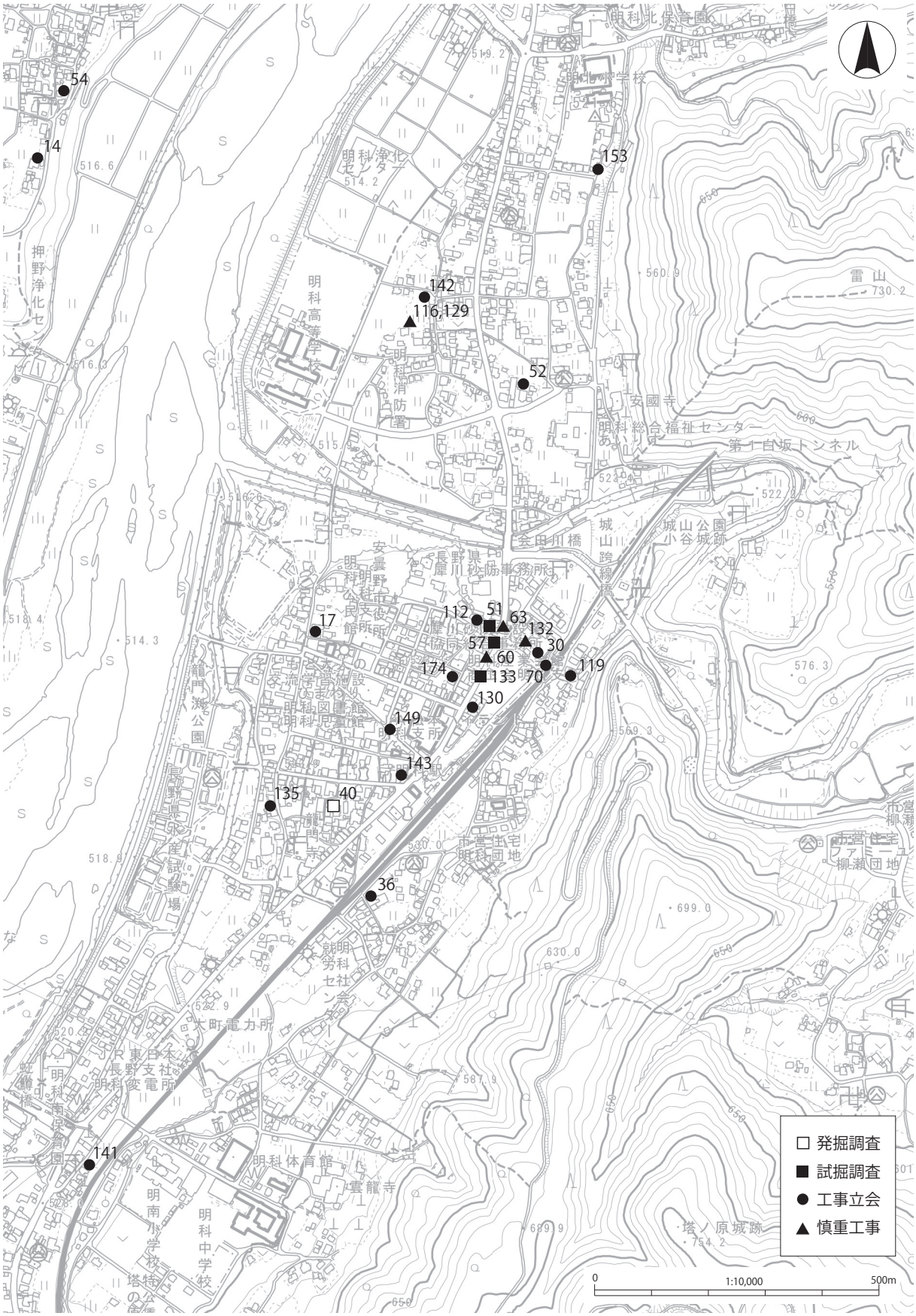
第 1 図　平成30年度発掘調査等位置図（北部）


122
77
180
105
98
9
拡大図
第 4 図
154
148
84
121
66
100
164
172
64
95
178
106
67
157
10
□ 発掘調査
■ 試掘調査
● 工事立会
▲ 慎重工事
0
1:50,000
2,000m

第 2 図　平成30年度発掘調査等位置図（南部）


96
32
117
110
90
42
29,113,128,136
76
49
27
4
61
179
94
115
21,65
173
82
25
28,107
120,175
71,93
47
152
53
□ 発掘調査
■ 試掘調査
● 工事立会
▲ 慎重工事
0
1:50,000
2,000m

第 3 図　平成30年度発掘調査等位置図（穂高駅周辺）



第 4 図　平成30年度発掘調査等位置図（明科駅周辺）

第１表　平成30年度発掘調査等一覧

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
●１	工事立会	北才の神遺跡	穂高6712番１外２筆	宅地造成	20180206	20180402	市教委
●２	工事立会	宮脇遺跡	穂高6635番３外１筆	個人住宅	20180403	20180403	市教委
●３	工事立会	穂高神社境内遺跡	穂高6015番19	ガス・水道・電気等	20180404	20180404	市教委
●４	工事立会	上手木戸遺跡	豊科南穂高6823番１付近	道路	20180404	20180404	市教委
●５	工事立会	北才の神遺跡	穂高2494番20	個人住宅	20180405	20180405	市教委
●６	工事立会	等々力町巾上巾下遺跡	穂高4570番２外１筆	道路	20180405	20180405	市教委
▲７	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6823番13	個人住宅	20180405	20180405	市教委
▲８	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6823番16	個人住宅	20180406	20180406	市教委
●９	工事立会	みどりヶ丘遺跡	明科七貴7222番30	個人住宅	20180409	20180409	市教委
●10	工事立会	正島遺跡	穂高879番１	個人住宅	20180410	20180410	市教委
●11	工事立会	鳴沢Ａ遺跡	三郷小倉6529番１外２筆	その他の建物	20180413	20180413	市教委
●12	工事立会	藤塚遺跡	穂高6721番16	個人住宅	20180418	20180418	市教委
●13	工事立会	北才の神遺跡	穂高2492番５先外	道路	20180423	20180423	市教委
●14	工事立会	塩川原遺跡	明科七貴7365番７他１筆	個人住宅	20180423	20180423	市教委
▲15	慎重工事	等々力町巾上巾下遺跡	穂高4597番２	その他の建物	20180424	20180424	市教委
▲16	慎重工事	藤塚遺跡ほか	穂高6765番２先	その他の建物	20180424	20180424	市教委
●17	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4269番	個人住宅	20180508	20180508	市教委
▲18	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6823番15	個人住宅	20180509	20180509	市教委
●19	工事立会	芝宮南遺跡	穂高7217番１外13筆	学校建設	20180409	20180510	市教委
●20	工事立会	穂高神社境内遺跡	穂高5986番４の一部	個人住宅	20180510	20180510	市教委
▲21	慎重工事	上手木戸遺跡	豊科高家3944番３	個人住宅	20180510	20180510	市教委
●22	工事立会	馬場街道遺跡	穂高794番８外１筆	個人住宅	20180511	20180511	市教委
▲23	慎重工事	山崎遺跡	穂高牧1767番１先外	道路	20180511	20180511	市教委
●24	工事立会	藤塚遺跡	穂高2404番４先	道路	20180514	20180514	市教委
●25	工事立会	日光寺跡	豊科720番３先外	道路	20180514	20180514	市教委
●26	工事立会	宮城遺跡	穂高有明7028番	ガス・水道・電気等	20180514	20180514	市教委
●27	工事立会	上手木戸遺跡	豊科南穂高117番１	個人住宅	20180517	20180517	市教委
●28	工事立会	上手堀屋敷跡	豊科777番１外１筆	宅地造成	20180517	20180517	市教委
●29	工事立会	小瀬幅遺跡	豊科田沢4840番１外５筆	個人住宅	20180517	20180517	市教委
●30	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4161番11	個人住宅	20180525	20180525	市教委
▲31	慎重工事	北才の神遺跡	穂高2494番17	個人住宅	20180528	20180528	市教委
●32	工事立会	光遺跡	豊科光1423番２	その他開発	20180529	20180529	市教委
●33	工事立会	四反田遺跡	穂高993番28	個人住宅	20180529	20180529	市教委
●34	工事立会	等々力町巾上巾下遺跡	穂高4613番２	個人住宅	20180604	20180604	市教委
●35	工事立会	北才の神遺跡	穂高2512番１外１筆	その他開発	20180601	20180607	市教委

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
●36	工事立会	明科遺跡群上郷遺跡	明科中川手3551番４	個人住宅	20180611	20180611	市教委
▲37	慎重工事	等々力町巾上巾下遺跡	穂高4593番１外２筆	個人住宅	20180611	20180611	市教委
▲38	慎重工事	四反田遺跡	穂高993番24	個人住宅	20180612	20180612	市教委
●39	工事立会	堀之内遺跡	穂高1584番１	個人住宅	20180615	20180615	市教委
□40	発掘調査	明科遺跡群明科廃寺	明科中川手3779番	個人住宅	20180507	20180618	市教委
▲41	慎重工事	北才の神遺跡	穂高6712番２の内	個人住宅	20180618	20180618	市教委
●42	工事立会	町田遺跡	豊科田沢4685番１	個人住宅	20180621	20180621	市教委
▲43	慎重工事	空保木城跡	穂高牧783番７先	道路	20180621	20180621	市教委
●44	工事立会	馬場街道遺跡	穂高783番６外１筆	個人住宅兼工場又は店舗	20180625	20180625	市教委
●45	工事立会	藤塚遺跡	穂高6777番１外４筆	宅地造成	20180626	20180626	市教委
■46	試掘調査	なかじま遺跡	堀金三田1017番	個人住宅	20180626	20180626	市教委
●47	工事立会	白山神社横遺跡	三郷明盛2030番１	個人住宅	20180627	20180627	市教委
▲48	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6802番	その他の建物	20180628	20180628	市教委
▲49	慎重工事	法蔵寺館跡	豊科4780番１先	道路	20180706	20180706	市教委
●50	工事立会	北才の神遺跡	穂高2532番１外３筆	宅地造成	20180709	20180709	市教委
■51	試掘調査	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4178番１外７筆	個人住宅	20180710	20180710	市教委
●52	工事立会	潮遺跡群新屋遺跡	明科東川手482番１外２筆	個人住宅	20180711	20180711	市教委
●53	工事立会	真々部巾下遺跡	豊科高家5031番３先	ガス・水道・電気等	20180712	20180712	市教委
●54	工事立会	塩川原遺跡	明科七貴7304番	個人住宅	20180717	20180717	市教委
●55	工事立会	藤塚遺跡	穂高6778番３外２筆	道路	20180717	20180717	市教委
▲56	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6765番１	その他の建物	20180718	20180718	市教委
■57	試掘調査	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4004番７外１筆	道路	20180723	20180723	市教委
●58	工事立会	坂がいと遺跡	三郷明盛4952番	その他の建物	20180724	20180724	市教委
●59	工事立会	等々力町巾上巾下遺跡	穂高4411番１	その他の建物	20180725	20180725	市教委
▲60	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手6833番60外	道路	20180730	20180730	市教委
●61	工事立会	上ノ山窯跡群ほか	豊科田沢8141番473外	その他開発	20180731	20180731	市教委
●62	工事立会	穂高神社境内遺跡	穂高6065番３	集合住宅	20180801	20180801	市教委
▲63	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4178番１外７筆	個人住宅	20180801	20180801	市教委
●64	工事立会	光遺跡群北村遺跡	明科光14番外１筆	個人住宅	20180802	20180802	市教委
▲65	慎重工事	上手木戸遺跡	豊科高家3944番４	個人住宅	20180806	20180806	市教委
▲66	慎重工事	清水古屋敷遺跡	明科中川手5902番先	ガス・水道・電気等	20180813	20180813	市教委
▲67	慎重工事	光遺跡群中条遺跡	明科光620番７外１筆	その他開発	20180813	20180813	市教委
□68	発掘調査	穂高古墳群Ｆ９号墳	穂高柏原3653番	学術研究	20180806	20180816	國學院大學
●69	工事立会	宮脇遺跡	穂高6479番19外１筆	個人住宅	20180820	20180820	市教委
●70	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4008番６付近	道路	20180821	20180821	市教委
●71	工事立会	日光寺跡	豊科674番２	個人住宅	20180903	20180903	市教委

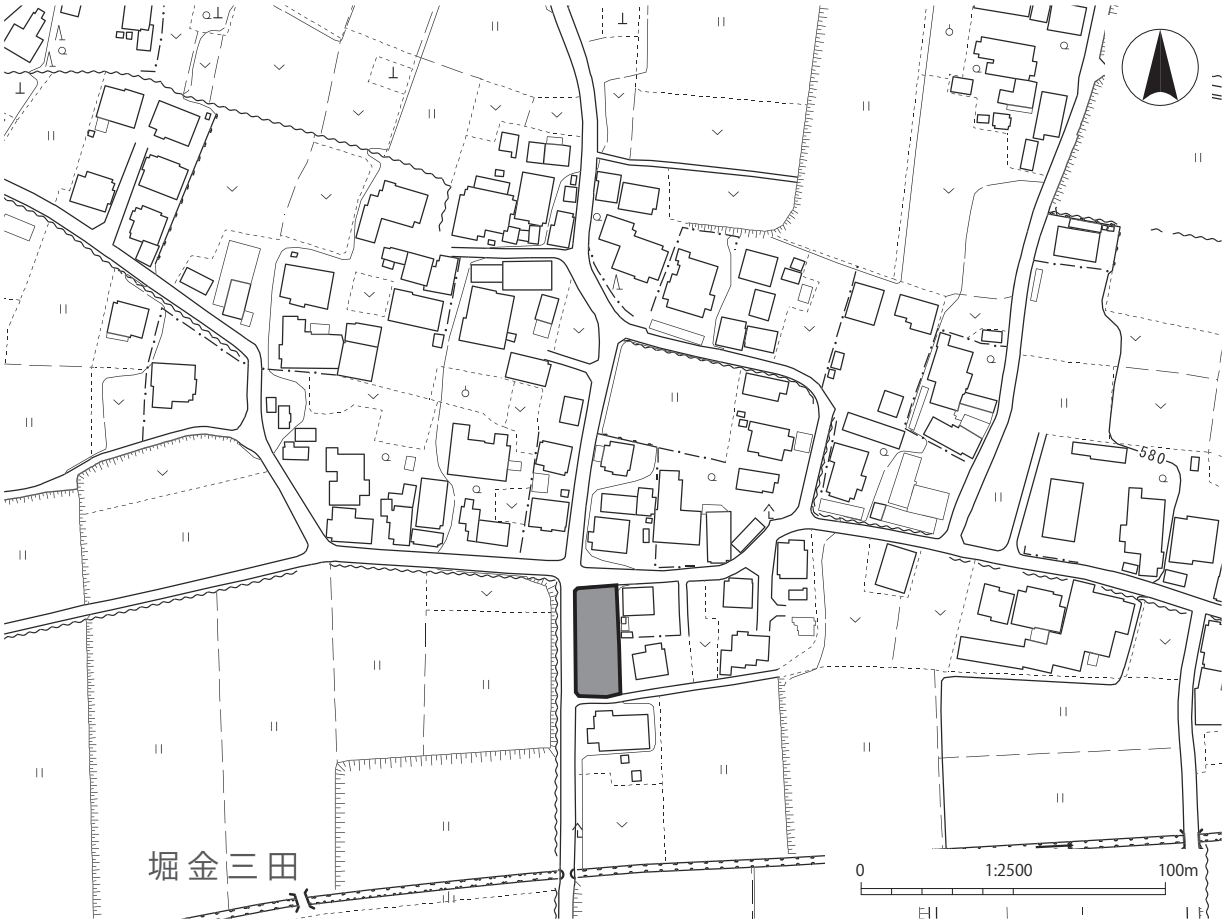
No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
▲72	慎重工事	川岸最氏宅地遺跡	三郷温4197番 1	個人住宅	20180903	20180903	市教委
▲73	慎重工事	宮脇遺跡	穂高6486番 6	個人住宅	20180904	20180904	市教委
●74	工事立会	宮城遺跡	穂高有明7271番 1	ガス・水道・電気等	20180912	20180912	市教委
▲75	慎重工事	川岸最氏宅地遺跡	三郷温4197番 3	個人住宅	20180913	20180913	市教委
●76	工事立会	円証寺跡	豊科5929番 1 外 1 筆	個人住宅	20180918	20180918	市教委
▲77	慎重工事	猿ヶ城砦址ほか	明科東川手15537番 1	その他開発	20180918	20180918	市教委
▲78	慎重工事	大坪沢遺跡	穂高7021番 3 先外	道路	20180918	20180918	市教委
●79	工事立会	坂がいと遺跡	三郷明盛4965番 5 外 1 筆	個人住宅	20180920	20180920	市教委
●80	工事立会	藤塚遺跡	穂高6764番 8	個人住宅	20180920	20180920	市教委
▲81	慎重工事	等々力町巾上巾下遺跡	穂高4285番	その他開発	20180920	20180920	市教委
●82	工事立会	日光寺跡	豊科668番先外	ガス・水道・電気等	20180921	20180921	市教委
■83	試掘調査	新林遺跡	穂高牧1904番 2	その他の建物	20180921	20180921	市教委
●84	工事立会	上手屋敷遺跡	明科中川手2224番 3	その他の建物	20180925	20180925	市教委
■85	試掘調査	栗の木下遺跡	三郷温2176番 1	宅地造成	20180926	20180926	市教委
▲86	慎重工事	栗の木下遺跡	三郷温2176番 1	宅地造成	20180928	20180928	市教委
●87	工事立会	貝梅道下遺跡	穂高5331番13	個人住宅	20181002	20181002	市教委
●88	工事立会	藤塚遺跡	穂高6812番 1	宅地造成	20181003	20181003	市教委
●89	工事立会	等々力町巾上巾下遺跡	穂高4509番 9 外 9 筆	道路	20181004	20181004	市教委
●90	工事立会	町田遺跡	豊科田沢4616番26外 1 筆	個人住宅	20181009	20181009	市教委
▲91	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6823番11	個人住宅	20181009	20181009	市教委
●92	工事立会	山崎遺跡	穂高牧1573番 1 外 1 筆	その他の建物	20181010	20181010	市教委
●93	工事立会	日光寺跡	豊科675番外 1 筆	個人住宅	20181012	20181012	市教委
●94	工事立会	上手木戸遺跡	豊科高家3921番 1	個人住宅	20181012	20181012	市教委
■95	試掘調査	光遺跡群北村遺跡	明科光92番 1 外 1 筆	個人住宅	20181016	20181016	市教委
●96	工事立会	天平遺跡	明科光2573番12外	その他開発	20181016	20181016	市教委
▲97	慎重工事	北才の神遺跡	穂高6712番 5	個人住宅	20181018	20181018	市教委
●98	工事立会	上生野遺跡	明科東川手13976番	個人住宅	20181018	20181018	市教委
▲99	慎重工事	北才の神遺跡	穂高2559番	その他の建物	20181018	20181018	市教委
■100	試掘調査	光遺跡群北村遺跡	明科光 6 番 1	個人住宅	20181018	20181018	市教委
●101	工事立会	北才の神遺跡	穂高2532番 1 外 2 筆	個人住宅	20181019	20181019	市教委
●102	工事立会	北才の神遺跡	穂高2557番 1	その他の建物	20181023	20181023	市教委
●103	工事立会	小岩嶽下木戸遺跡	穂高有明2975番 3	ガス・水道・電気等	20181024	20181024	市教委
□104	発掘調査	三枚橋遺跡	穂高1800番 2 外 5 筆	店舗	20181019	20181031	市教委
●105	工事立会	寺裏遺跡	明科南陸郷817番	個人住宅	20181101	20181101	市教委
●106	工事立会	光遺跡群北村遺跡	明科光266番	ガス・水道・電気等	20181102	20181102	市教委
●107	工事立会	上手堀屋敷跡	豊科777番 8	個人住宅	20181105	20181105	市教委

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
▲108	慎重工事	四反田遺跡	穂高993番23	個人住宅	20181105	20181105	市教委
▲109	慎重工事	北才の神遺跡	穂高6712番６	個人住宅	20181106	20181106	市教委
▲110	慎重工事	町田遺跡	豊科田沢4616番30	個人住宅	20181106	20181106	市教委
●111	工事立会	中在地遺跡	穂高753番７付近	ガス・水道・電気等	20181108	20181108	市教委
●112	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4178番10外６筆	個人住宅	20181109	20181109	市教委
●113	工事立会	小瀬幅遺跡	豊科田沢4854番１	ガス・水道・電気等	20181109	20181109	市教委
●114	工事立会	穂高神社境内遺跡	穂高6030番３	その他の建物	20181113	20181113	市教委
●115	工事立会	上手木戸遺跡	豊科高家2474番外１筆	ガス・水道・電気等	20181114	20181114	市教委
▲116	慎重工事	潮遺跡群古屋敷遺跡	明科東川手328番６	個人住宅	20181116	20181116	市教委
●117	工事立会	光城跡	豊科光2194番イ - 1 - 3	その他開発	20181116	20181120	市教委
●118	工事立会	宮城遺跡	穂高有明7263番１	その他の建物	20181121	20181121	市教委
●119	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4091番４	ガス・水道・電気等	20181122	20181122	市教委
●120	工事立会	上手堀屋敷跡	豊科777番１外１筆	宅地造成	20181122	20181122	市教委
●121	工事立会	町屋敷遺跡	明科中川手1771番１外１筆	その他農業関係事業	20181127	20181127	市教委
▲122	慎重工事	ほうろく屋敷遺跡	明科南陸郷3324番３外１筆	ガス・水道・電気等	20181127	20181127	市教委
■123	試掘調査	柏原遺跡	穂高柏原1787番２	宅地造成	20181129	20181129	市教委
■124	試掘調査	等々力町巾上巾下遺跡	穂高4614番４	工場	20181203	20181203	市教委
●125	工事立会	等々力町巾上巾下遺跡	穂高4509番３地先	道路	20181204	20181204	市教委
●126	工事立会	宮脇遺跡	穂高6484番２の内外２筆	個人住宅	20181205	20181205	市教委
●127	工事立会	藤塚遺跡	穂高6764番15	その他の建物	20181212	20181212	市教委
●128	工事立会	小瀬幅遺跡	豊科田沢4845番１先外	道路	20181217	20181217	市教委
▲129	慎重工事	潮遺跡群古屋敷遺跡	明科東川手328番４	個人住宅	20181217	20181217	市教委
●130	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手3733番１	個人住宅	20181219	20181219	市教委
▲131	慎重工事	等々力町巾上巾下遺跡	穂高4614番４外１筆	工場	20181220	20181220	市教委
▲132	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4161番12	個人住宅	20181220	20181220	市教委
■133	試掘調査	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手3991番11	道路	20181225	20181225	市教委
●134	工事立会	三柱神社東遺跡	三郷明盛4775番３	その他の建物	20181226	20181226	市教委
●135	工事立会	明科遺跡群県町遺跡	明科中川手3843番１外２筆	個人住宅	20181227	20181227	市教委
●136	工事立会	小瀬幅遺跡	豊科田沢4837番３外３筆	ガス・水道・電気等	20181227	20181227	市教委
●137	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原1660番５	個人住宅	20181228	20181228	市教委
●138	工事立会	藤塚遺跡	穂高6780番１外２筆	宅地造成	20190108	20190108	市教委
●139	工事立会	藤塚遺跡	穂高6764番12	個人住宅	20190108	20190108	市教委
●140	工事立会	中在地遺跡	穂高753番１先外	道路	20190108	20190109	市教委
●141	工事立会	町屋敷遺跡	明科中川手2734番５	個人住宅	20190109	20190109	市教委
●142	工事立会	潮遺跡群古屋敷遺跡	明科東川手328番２	ガス・水道・電気等	20190110	20190110	市教委
●143	工事立会	明科遺跡群県町遺跡	明科中川手3749番８	その他開発	20190110	20190110	市教委

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
▲144	慎重工事	栗の木下遺跡	三郷温2176番3外3筆	ガス・水道・電気等	20190115	20190115	市教委
●145	工事立会	藤塚遺跡	穂高6808番	ガス・水道・電気等	20190117	20190117	市教委
●146	工事立会	堀金小学校付近遺跡	堀金烏川2844番6	個人住宅	20190122	20190122	市教委
●147	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原1583番1外1筆	宅地造成	20190125	20190125	市教委
●148	工事立会	やしき遺跡	明科七貴6188番1先	その他農業関係事業	20190125	20190125	市教委
●149	工事立会	明科遺跡群県町遺跡ほか	明科中川手3739番1付近外	道路	20190129	20190130	市教委
●150	工事立会	野辺沢遺跡ほか	穂高有明7280番イ外	その他開発	20190131	20190131	市教委
●151	工事立会	三柱神社東遺跡	三郷明盛4771番8外4筆	道路	20190201	20190201	市教委
●152	工事立会	飯田古宮遺跡	豊科高家159番先	農業基盤整備事業	20190204	20190204	市教委
●153	工事立会	潮遺跡群塩田若宮遺跡	明科東川手880番11先	道路	20190206	20190206	市教委
●154	工事立会	やしき遺跡	明科七貴6496番外	その他開発	20190207	20190207	市教委
●155	工事立会	宮脇遺跡	穂高6479番11付近	ガス・水道・電気等	20190213	20190213	市教委
●156	工事立会	藤塚遺跡	穂高6813番5付近	河川	20190214	20190214	市教委
▲157	慎重工事	光遺跡群下里館	明科光840番5外1筆	その他開発	20190214	20190214	市教委
●158	工事立会	藤塚遺跡	穂高6806番1外3筆	宅地造成	20190215	20190215	市教委
●159	工事立会	藤塚遺跡	穂高6812番7	個人住宅	20190215	20190215	市教委
●160	工事立会	貝梅道下遺跡	穂高5330番3外1筆	その他の建物	20190215	20190215	市教委
●161	工事立会	藤塚遺跡	穂高6780番8	道路	20190216	20190216	市教委
●162	工事立会	北才の神遺跡	穂高2532番1外1筆	ガス・水道・電気等	20190219	20190219	市教委
●163	工事立会	宮脇遺跡	穂高6568番付近	河川	20190220	20190220	市教委
▲164	慎重工事	光遺跡群北村遺跡	明科光6番1	個人住宅	20190221	20190221	市教委
▲165	慎重工事	岩原城址	堀金烏川97番外	その他開発	20190221	20190221	市教委
●166	工事立会	藤塚遺跡	穂高6764番3外1筆	その他開発	20190221	20190222	市教委
●167	工事立会	宮脇遺跡	穂高10108番1外1筆	宅地造成	20190304	20190304	市教委
●168	工事立会	北才の神遺跡	穂高2532番5外1筆	個人住宅	20190305	20190305	市教委
●169	工事立会	等々力町巾上巾下遺跡	穂高4372番1地先	道路	20190306	20190306	市教委
●170	工事立会	四反田遺跡	穂高992番1付近	道路	20190308	20190308	市教委
●171	工事立会	貝梅道上遺跡	穂高5033番3	宅地造成	20190308	20190308	市教委
●172	工事立会	光遺跡群北村遺跡	明科光6番1	個人住宅	20190311	20190311	市教委
▲173	慎重工事	上手木戸遺跡	豊科高家2590番2外2筆	ガス・水道・電気等	20190313	20190313	市教委
●174	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手6812番51外1筆	ガス・水道・電気等	20190307	20190315	市教委
●175	工事立会	上手堀屋敷跡	豊科777番11外2筆	個人住宅	20190318	20190318	市教委
●176	工事立会	三柱神社東遺跡	三郷明盛4814番1	その他の建物	20190320	20190320	市教委
●177	工事立会	丁田遺跡	三郷温5825番5	その他の建物	20190322	20190322	市教委
▲178	慎重工事	光遺跡群北村遺跡	明科光92番1	ガス・水道・電気等	20190322	20190322	市教委
▲179	慎重工事	上ノ山窯跡群ほか	豊科田沢8141番473外	その他開発	20190329	20190329	市教委
▲180	慎重工事	神谷物見跡	明科南陸郷5600番35外84筆	その他開発	20190329	20190329	市教委

第２章　試掘調査

１　なかじま遺跡（第１表■46）



第５図　なかじま遺跡試掘位置図

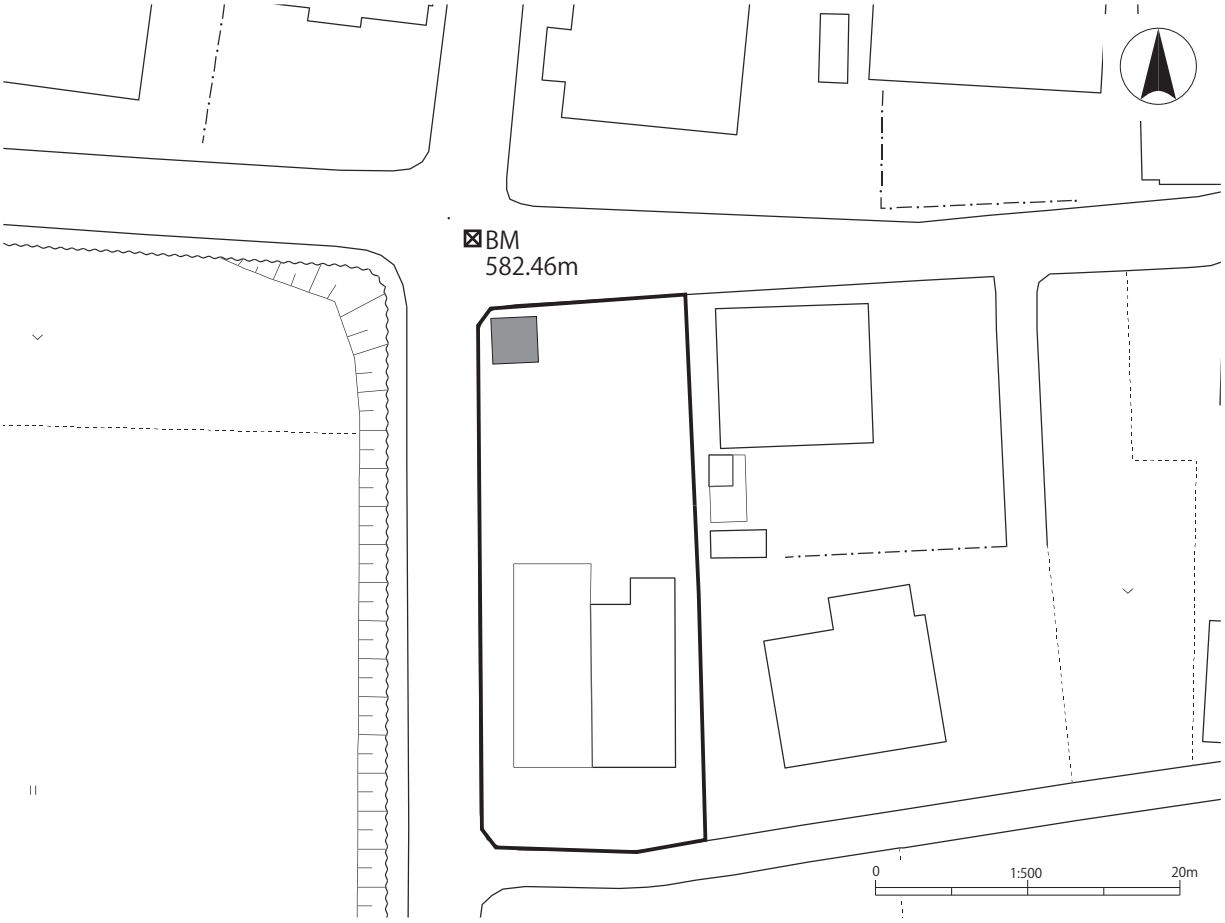
所在地	安曇野市堀金三田1017番	調査面積	９㎡
調査期間	平成30年（2018）６月26日（火）	調査契機	個人住宅
調査参加者	山下泰永、横山幸子、田多井智恵		

（１）概要

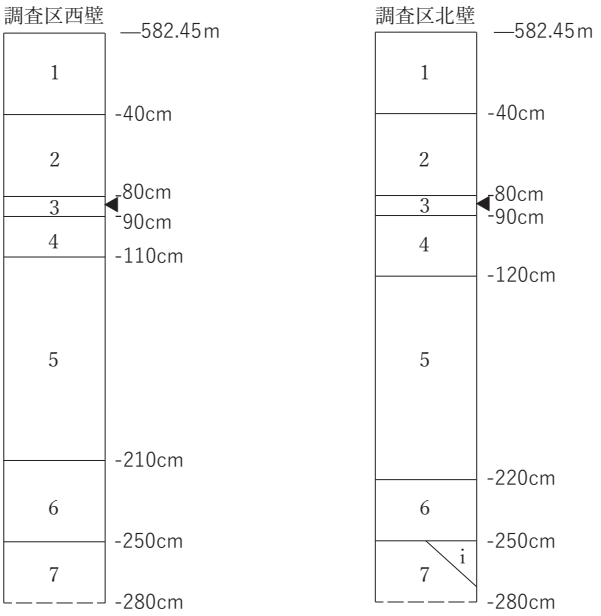
なかじま遺跡は、飛騨山脈東麓の深沢（ふかさわ）左岸に所在する縄文時代及び古代の集落跡である。この遺跡では、これまでに発掘調査を実施した記録はない。過去に、縄文時代中期の土器・石器が採集された記録があるが、詳細位置及び出土深度等は不明である。

今回の試掘調査は、個人住宅建設に際し浸透桝設置箇所で実施した。深度280cm まで掘削した結果、深度80～90cm の第３層で摩耗した微細土器片や剥片を確認した。第４・５層は層厚計100cm 以上の礫層で、さらに下位の第６・７層でシルトを確認したが、深度が深く安全上の配慮から詳細観察を実施できなかった。

上記の結果から、個人住宅の基礎掘削では埋蔵文化財に新規の影響を与えることはないと判断した。



第６図　なかじま遺跡調査区配置図



1, 現代の造成土
2,10YR2/2 黒褐色シルト
　しまり中、粘性中
　最大径 20cm、平均径 3cm の円礫を含む
　しまり弱、旧流路か
　ビニール片、コンクリート片を含む
3,10YR3/2 黒褐色シルト
　しまり中、粘性中
　最大径 5cm、平均径 3cm の円礫を含む
　第 2 層より礫の量が少ない
　2mm 程度の摩耗した土器片、黒曜石剥片等遺物を含む
4,10YR2/1 黒色礫
　しまり弱、粘性強
　基質はシルトで、礫支持
　最大径20cm、平均径3cmの円礫からなる
5,10YR3/3 暗褐色礫
　しまり弱、粘性弱
　基質は中粒砂で、礫支持
　最大径15cm、平均径3cmの円礫からなる
6, 黒褐色シルト
7, 褐色シルト

i , 礫

※掘削深度が深いため、第 6 層、第 7 層及び i 層は
　地上からの観察のみで詳細不明
※◀は遺物確認位置

第７図　なかじま遺跡土層概念図

1　調査状況（東から）

2　調査状況（西から）

3　調査区西壁

4　調査区北壁

5　完掘状況（西から）

6　完掘状況（南から）

7　出土剥片

8　周辺表採遺物

２　明科遺跡群（あかしな）栄町（さかえちょう）遺跡（第１表■51）

第８図　栄町遺跡試掘位置図

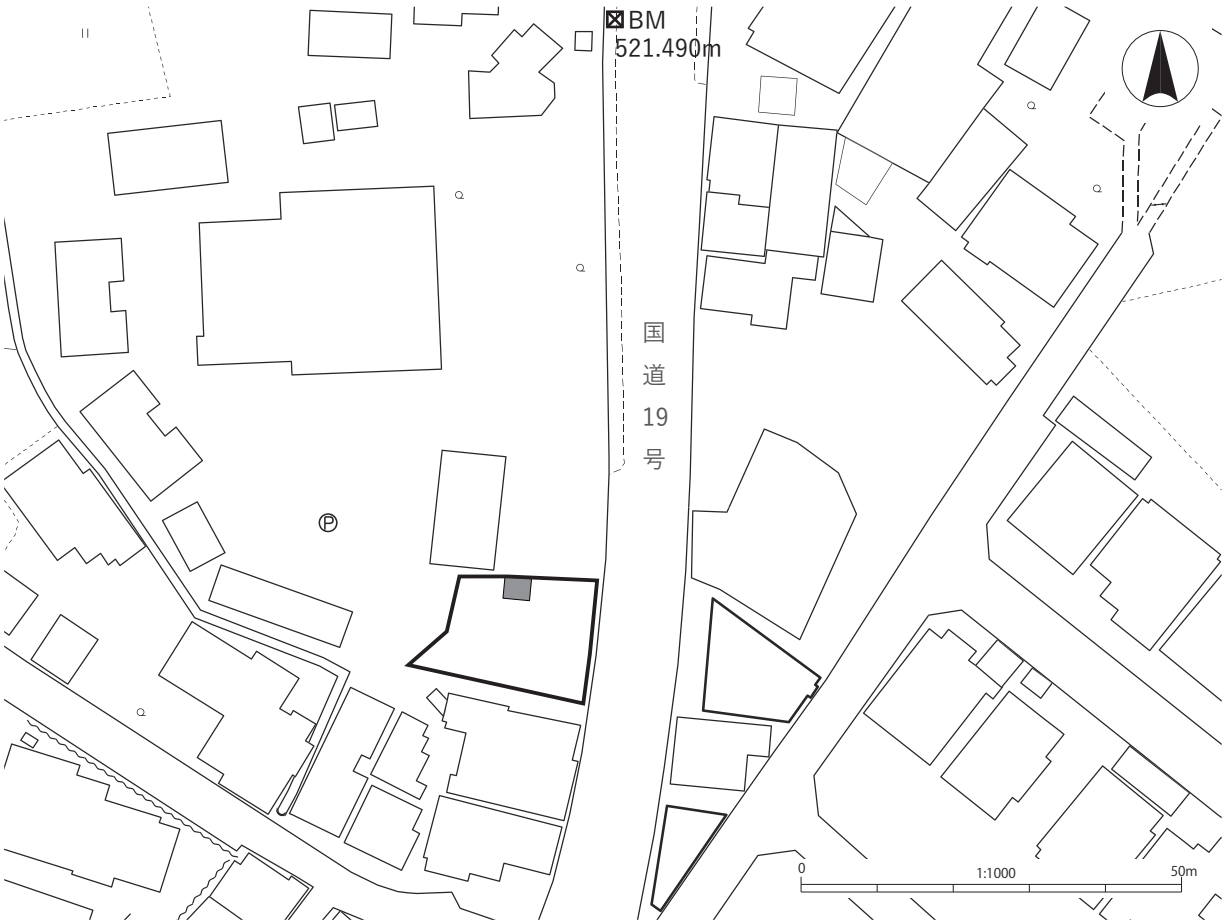
所在地	安曇野市明科中川手4178番１外７筆	調査面積	９㎡
調査期間	平成30年（2018）７月10日（火）	調査契機	個人住宅
調査参加者	山下泰永、横山幸子、田多井智恵		

（１）概要

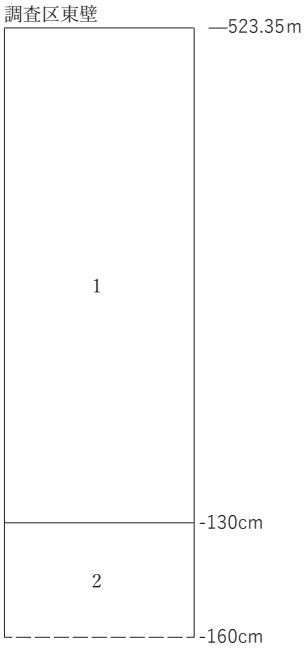
明科遺跡群栄町遺跡（以下、「栄町遺跡」とする。）は、犀川右岸の河岸段丘上に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに４次の発掘調査を実施しており、古墳時代後期の大規模な集落跡の存在を確認した（安曇野市教委2013、2014）。

今回の試掘調査は、個人住宅建設に際し外構の擁壁設置箇所で実施した。試掘箇所は、栄町遺跡第１～４次発掘調査地点から北東約200m に位置する。調査の結果、深度130cm までは現代のビニールパイプ等が混入する造成土で、深度130～160cm に少量の粉末状炭化物を包含する粘土層が存在した。遺構・遺物は、確認していない。

上記の結果から、個人住宅の基礎掘削では埋蔵文化財に新規の影響を与えることはないと判断した。



第９図　栄町遺跡調査区配置図



1, 現代の造成土
　ビニールパイプ、ガラス片、現代の陶器片などを含む
2,10YR5/4 にぶい黄褐色粘土
　しまり強、粘性強
　最大径 15cm、平均径 5cm の亜円礫をごくわずかに含む
　炭化物を少量含む
　遺物を含まない

第10図　栄町遺跡土層概念図

1　調査前（東から）

2　調査前（南から）

3　調査前（西から）

4　調査区東壁

5　完掘状況（東から）

6　完掘状況（南から）

7　調査区遠景（北東から）

8　調査区遠景（南東から）

３　明科遺跡群栄町遺跡（第１表■57）

第11図　栄町遺跡試掘位置図

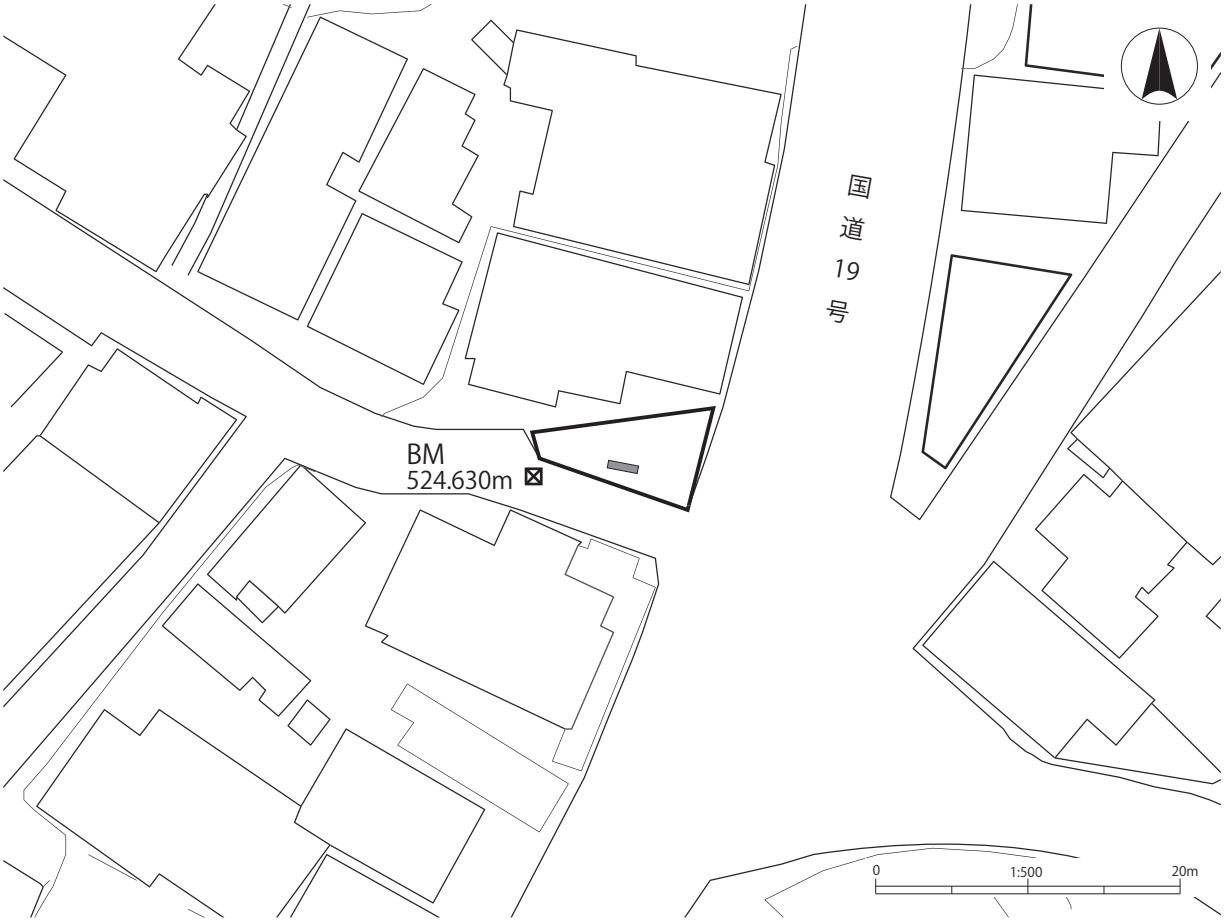
所在地	安曇野市明科中川手4004番７外１筆	調査面積	１㎡
調査期間	平成30年（2018）７月23日（月）	調査契機	道路
調査参加者	土屋和章、横山幸子、田多井智恵、勝野辰雄		

（１）概要

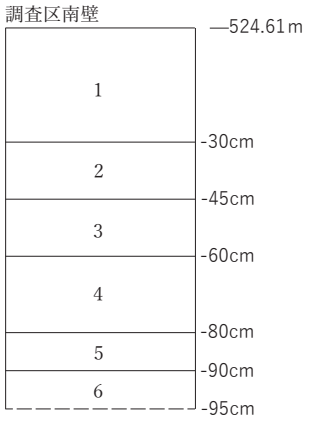
栄町遺跡は、犀川右岸の河岸段丘上に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに４次の発掘調査を実施しており、古墳時代後期の大規模な集落跡の存在を確認した（安曇野市教委2013、2014）。

試掘調査は、道路改良工事に先立ち側溝設置箇所で実施した。施工地にトレンチを設定して調査したところ、深度30～80cmの第２～４層が粘土、深度80～95cmの第５・６層が砂礫の堆積で、このうち第４層から須恵器小破片２点が出土した。このため、第４層付近で遺構の確認を試みたが、遺構は確認していない。出土須恵器は小破片であるうえ、摩耗も著しいため主体的な出土状況ではないと判断した。

上記の結果から、調査地には遺構等は存在せず、本件工事は埋蔵文化財に新規の影響を与えることはないと判断した。



第12図　栄町遺跡トレンチ配置図



1, 現代の造成土
　ビニール片、現代の陶器片、レンガ片などを含む
2,10YR4/4 褐色粘土
　しまり強、粘性中
　炭化物を微量含む
3,10YR4/4 褐色粘土
　しまり強、粘性中
　10YR5/6 黄褐色粘土粒を多量に含み、第２層より黄色味が強い
　1mm 以下の酸化鉄粒を少量含む
4,10YR5/1 褐灰色粘土
　しまり強、粘性中
　10YR5/6 黄褐色粘土粒を含む
　炭化物及び最大2cmの酸化鉄粒を含む
5,10YR4/2 灰黄褐色細粒砂
　しまり中、粘性強
　最大径10cmの円礫を微量含む
6,10YR4/2灰黄褐色礫
　しまり弱、粘性弱
　基質は粗粒砂で礫支持
　最大径20cm、平均径3cmの円礫からなる
　炭化物を含む

第13図　栄町遺跡土層概念図

1　調査前（北東から）

2　調査前（西から）

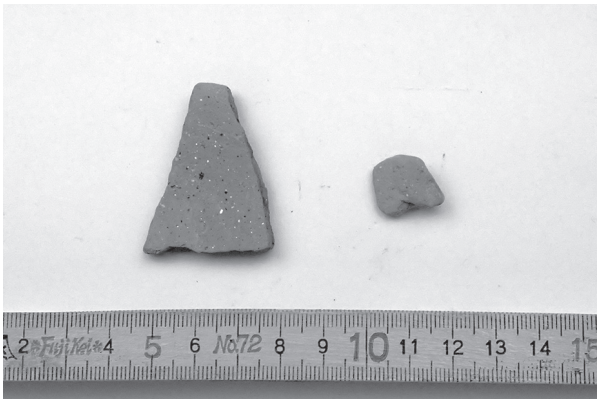
3　完掘状況（北から）

4　完掘状況（西から）

5　完掘状況（東から）

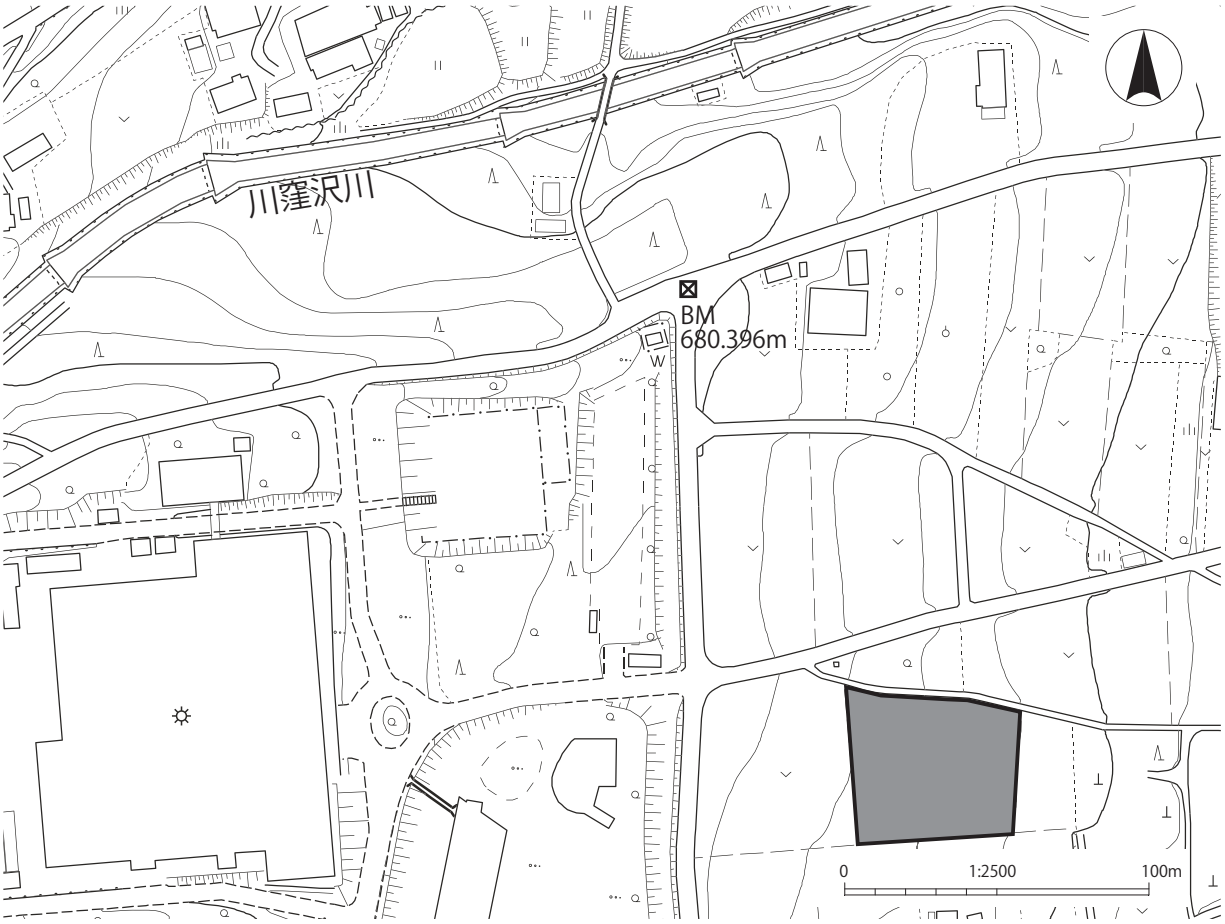
6　調査区南壁

7　埋め戻し状況（西から）



8　出土遺物

4　新林（しんばやし）遺跡（第１表■83）



第14図　新林遺跡試掘位置図

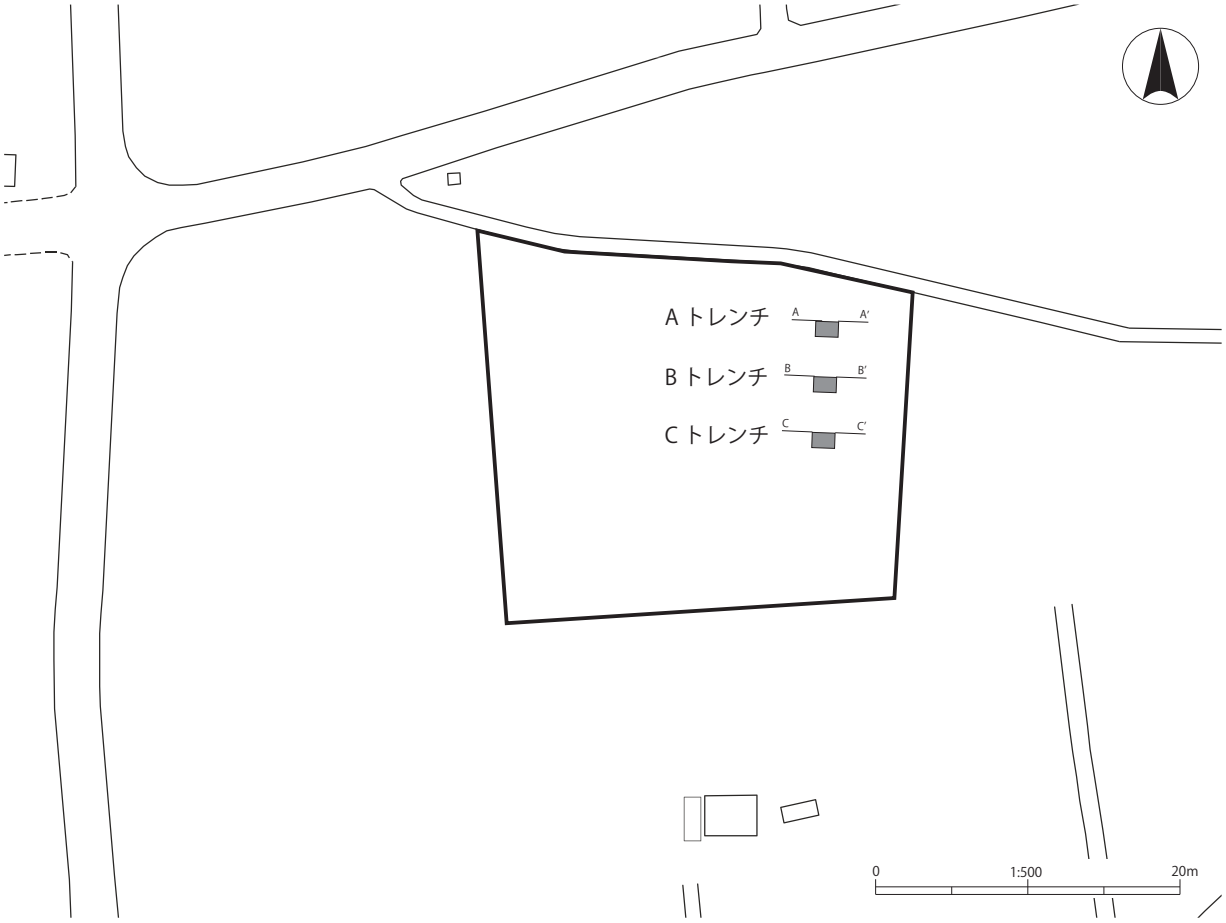
所在地	安曇野市穂高牧1904番２	調査面積	12㎡
調査期間	平成30年（2018）９月21日（金）	調査契機	駐車場
調査参加者	山下泰永、土屋和章、横山幸子、田多井智恵		

（１）概要

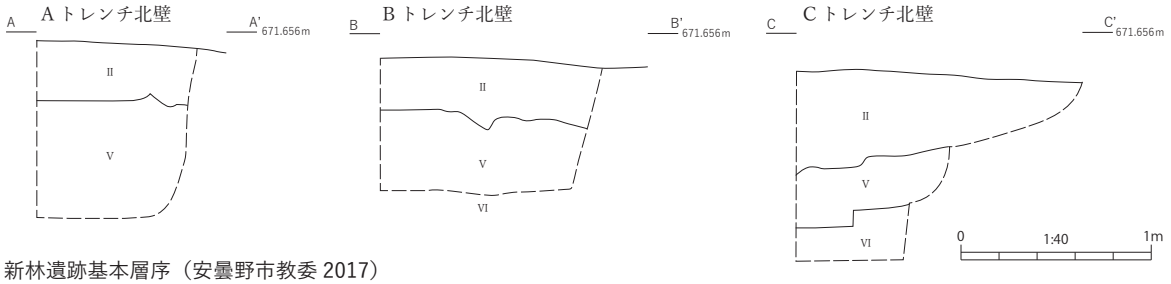
新林遺跡は、飛騨山脈東麓の川窪沢川（かわくぼさわ）と芦ノ沢（あし　さわ）に南北を画された緩斜面に所在する縄文時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに４次にわたる発掘調査を実施しており、第１～３次調査で、縄文時代中期後半を中心とした集落跡を確認している（安曇野市教委2017、2019a）。

試掘調査は、駐車場造成に伴う排水設備設置箇所で実施した。新林遺跡では、過去の調査で基本層序を確認している（安曇野市教委2017）。今回の調査の結果、観察できた土層は、新林遺跡基本層序の第Ⅱ層及び第Ⅴ・Ⅵ層で、この層中に遺構・遺物は存在しなかった。これまでの調査成果では、縄文時代の遺構が第Ⅴ層を掘り込んで構築されるため、この層の形成は縄文時代よりも古く、遺構等も存在しないことを確認している。

上記の結果から、調査地に遺構・遺物は存在しないため、本件工事は埋蔵文化財に新規の影響を与えることはないと判断した。



第15図　新林遺跡トレンチ配置図



新林遺跡基本層序（安曇野市教委 2017）

I , 現代の造成土

II,10YR2/2 黒褐色砂質シルト
　しまり中、粘性中
　褐色砂質シルト（10YR4/4）をブロック状に含む
　炭化物を少量含む

III,10YR2/2 黒褐色砂質シルト
　しまり中、粘性中
　炭化物を極少量含む
　径 2 ～ 3cm の亜円礫及び褐色シルトブロック
　をごく少量含む

IV,10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト
　しまり中、粘性中
　III層の黒褐色砂質シルトをブロック状に若干含む

V,10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト
　しまり中、粘性中
　径 3 ～ 5cm の角礫を少量含む
　ロームを主体とする洪水堆積層か?

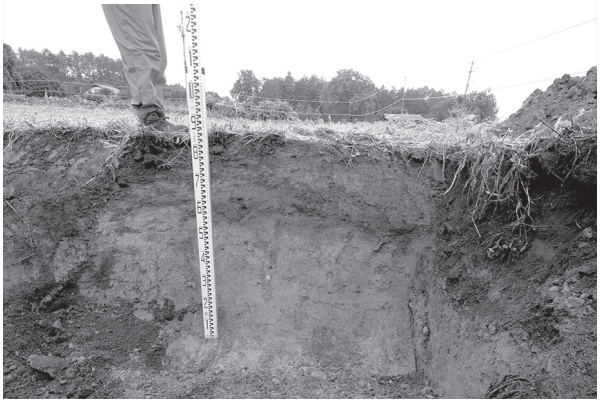
VI,10YR3/4 暗褐色礫混シルト
　しまりやや強、粘性中
　最大で径 40cm 程度の角礫を多く含む洪水堆積層

第16図　新林遺跡セクション図

1　調査区全景（北西から）

2　調査区全景（西から）

3　Ａトレンチ完掘状況（南西から）



4　Ａトレンチ北壁

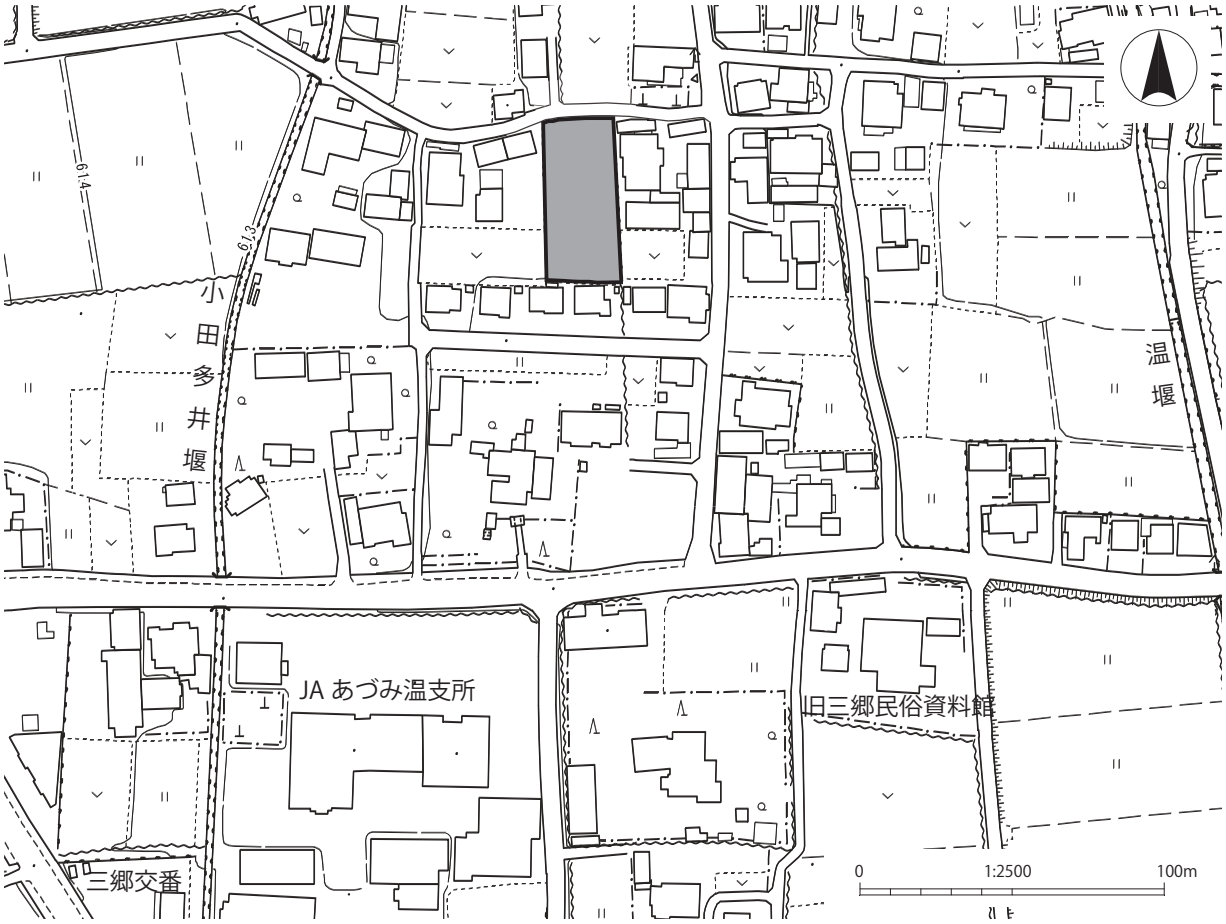
5　Ｂトレンチ完掘状況（南西から）

6　Ｂトレンチ北壁

7　Ｃトレンチ完掘状況（南西から）

8　Ｃトレンチ北壁

5　栗の木下遺跡（第１表■85）



第17図　栗の木下遺跡試掘位置図

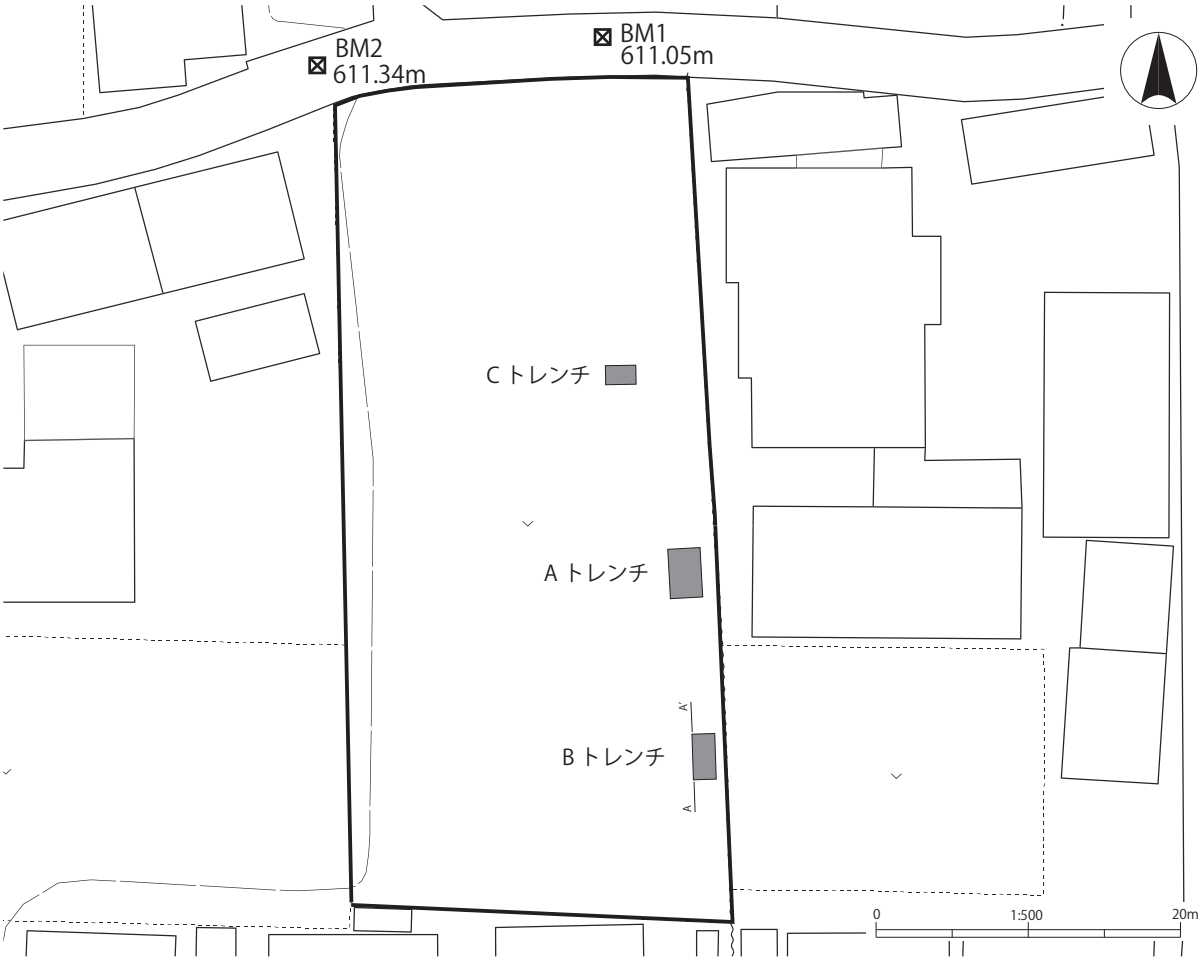
所在地	安曇野市三郷温2176番１	調査面積	13㎡
調査期間	平成30年（2018）９月26日（水）	調査契機	宅地造成
調査参加者	山下泰永、横山幸子、白鳥章、田多井智恵、宮下智美		

（１）概要

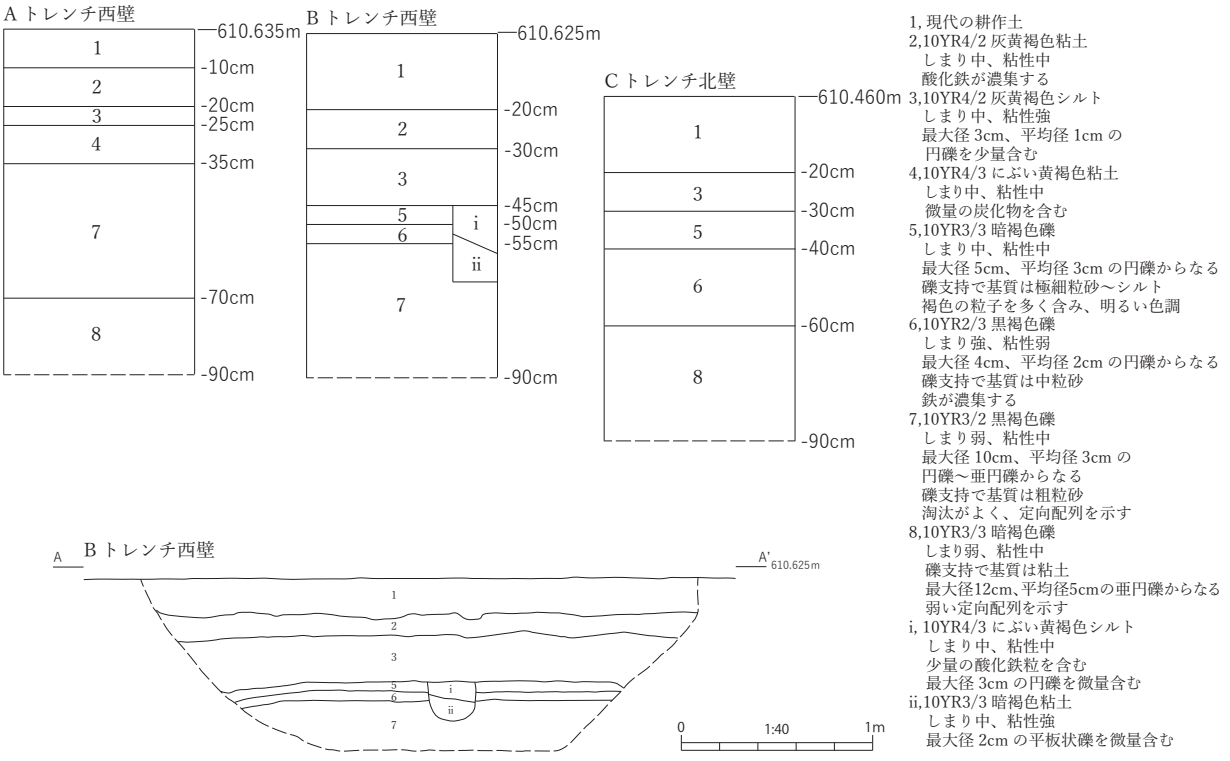
栗の木下遺跡は、黒沢川扇状地の扇央に所在する平安時代以降の集落跡である。遺跡は用水路である小田多井堰の東西に広がり、これまでの試掘調査では、堰西側で平安時代後期の集落跡、堰東側で同時期の土壙墓を確認している（三郷村教委1999、2005）。

試掘調査は、宅地造成地のうち浸透桝設置箇所で実施した。調査の結果、最も南に位置するＢトレンチで、直径25cm 程度の第３層下面から第７層までの掘り込みを確認したが、堆積土中に遺物・炭化物がなく、輪郭が不明瞭であることから人為的な遺構ではなく樹根跡と判断した。これ以外に、遺構・遺物は確認していない。

上記の結果から、調査地に遺構・遺物は存在しないため、本件工事は埋蔵文化財に新規の影響を与えることはないと判断した。



第18図　栗の木下遺跡トレンチ配置図



第19図　栗の木下遺跡土層図

1　調査地全景（西から）

2　調査地全景（南東から）

3　Ａトレンチ完掘状況（北から）

4　Ａトレンチ西壁

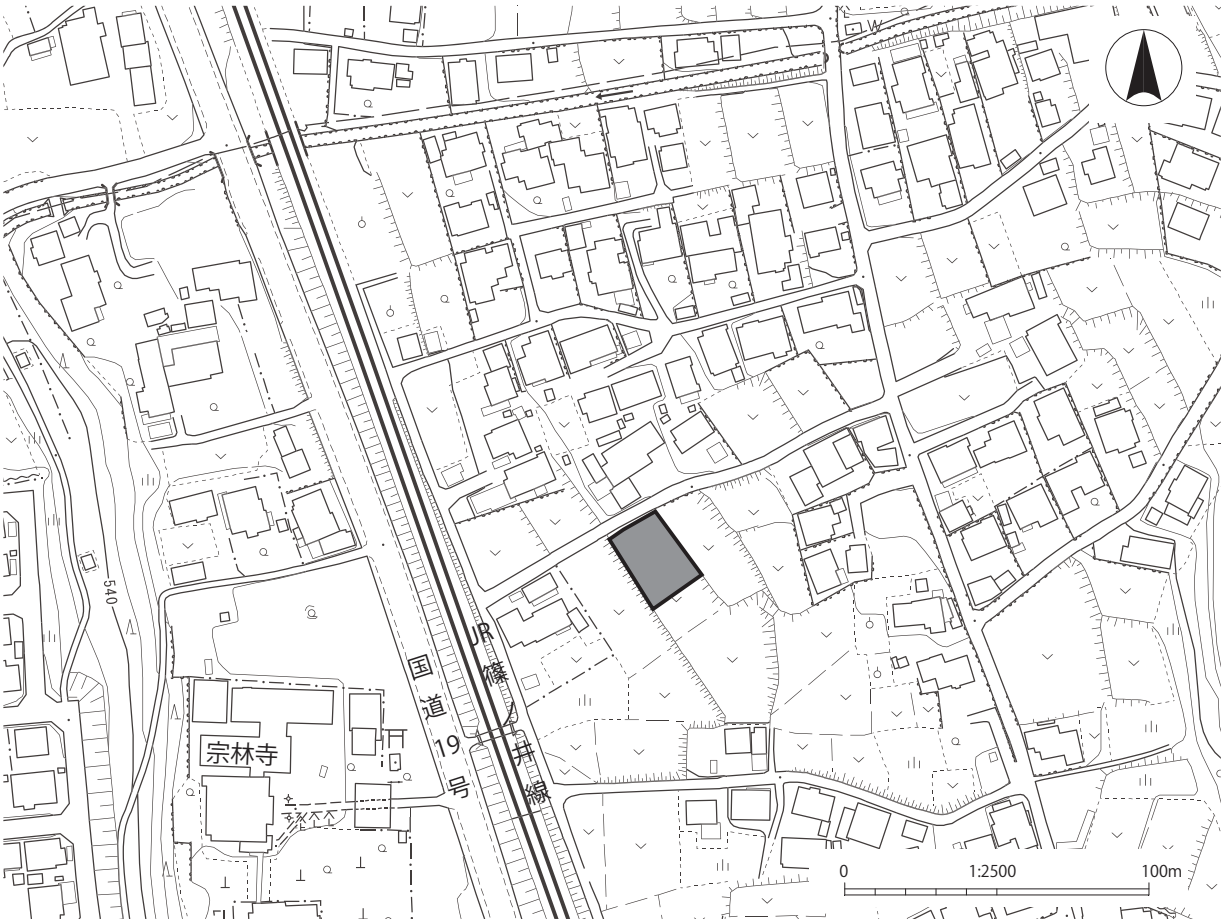
5　Ｂトレンチ完掘状況（北から）

6　Ｂトレンチ西壁

7　Ｃトレンチ完掘状況（北から）

8　Ｃトレンチ北壁

6　光遺跡群北村遺跡（第１表■95）



第20図　北村遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市明科光92番１外１筆	調査面積	４㎡
調査期間	平成30年（2018）10月16日（火）	調査契機	個人住宅
調査参加者	横山幸子、白鳥章、田多井智恵、宮下智美		

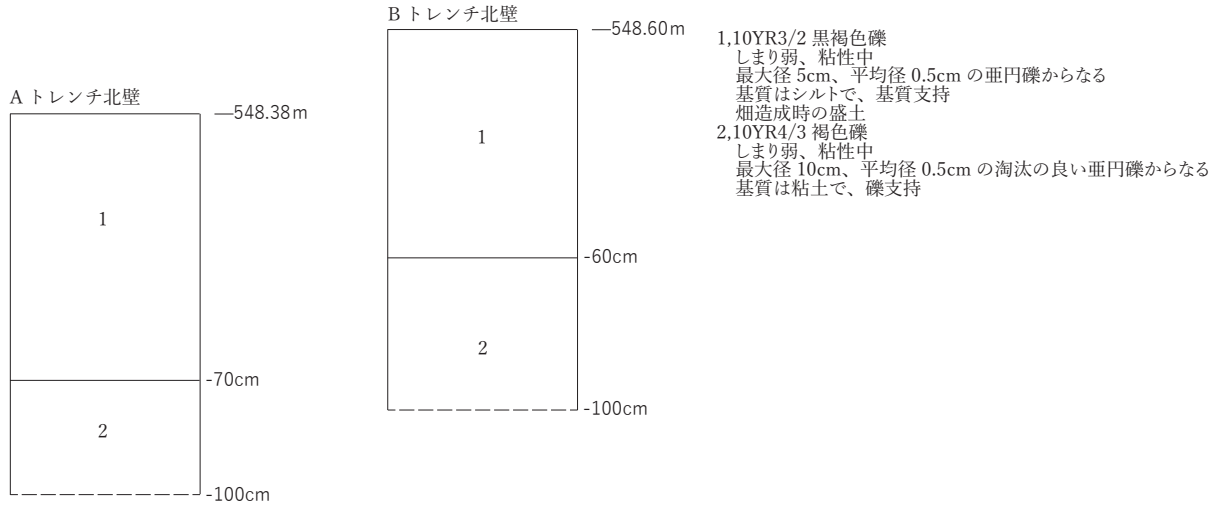
（１）概要

光遺跡群北村遺跡（以下、「北村遺跡」とする。）は、犀川右岸の河岸段丘上に所在する縄文時代～近世の集落跡である。この遺跡では、中央自動車道長野線建設に先立ち長野県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施し、古代の集落跡及び縄文時代の墓域・集落跡を確認している（長野県埋文セ1993）。

今回の試掘調査は、個人住宅建設に際し外構の擁壁設置箇所で実施した。試掘箇所は、上記発掘調査地点から北約450m に位置する。調査の結果、深度60～70cm までは現代の造成土で、この下位深度100cm までは礫層であった。いずれの層でも、遺構・遺物は確認していない。

上記の結果から、個人住宅の基礎掘削では埋蔵文化財に新規の影響を与えることはないと判断した。

第21図　北村遺跡トレンチ配置図



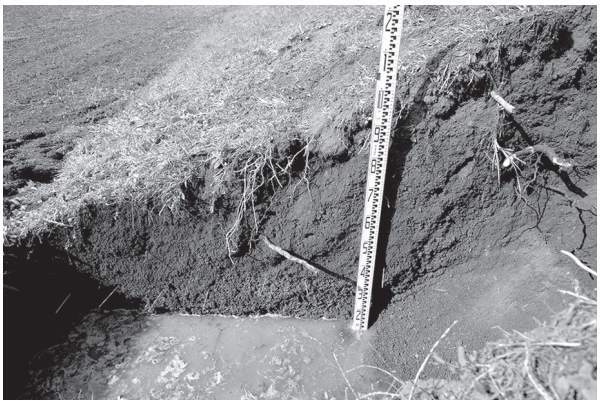
第22図　北村遺跡土層概念図

1　調査区全景（北から）

2　調査区全景（南東から）

3　調査区全景（南から）

4　Ａトレンチ完掘状況（西から）



5　Ａトレンチ北壁

6　Ｂトレンチ完掘状況（西から）

7　Ｂトレンチ北壁

8　調査区遠景（南西から）

7　光遺跡群北村遺跡（第１表■100）

第23図　北村遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市明科光６番１	調査面積	４㎡
調査期間	平成30年（2018）10月18日（木）	調査契機	個人住宅
調査参加者	横山幸子、白鳥章、田多井智恵、宮下智美		

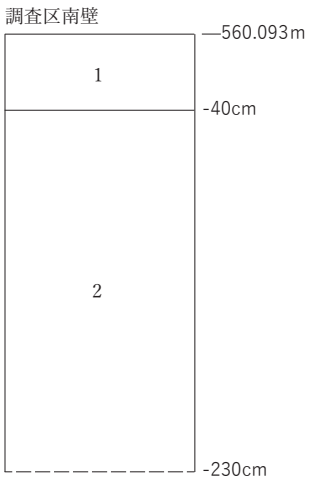
（１）概要

北村遺跡は、犀川右岸の河岸段丘上に所在する縄文時代～近世の集落跡である。この遺跡では、中央自動車道長野線建設に際し長野県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施し、古代の集落跡及び縄文時代の墓域・集落跡を確認している（長野県埋文セ1993）。

今回の試掘調査は、個人住宅建設に際し浸透桝設置箇所で実施した。試掘箇所は、上記発掘調査地点から北約550m に位置する。調査の結果、深度40cm までは現代の耕作土で、この下位深度230cm までは砂礫層であった。いずれの層でも、遺構・遺物は確認していない。

上記の結果から、個人住宅の基礎掘削では埋蔵文化財に新規の影響を与えることはないと判断した。

第24図　北村遺跡トレンチ配置図



1, 耕作土
2,10YR3/2 黒褐色砂礫
　しまり弱、粘性弱
　礫支持で、基質は細粒砂
　最大径 20cm、平均径 3mm の円礫～亜角礫
　淘汰がよく、1cm 以下の礫が大半を占める
　周辺地域の土による盛土と思われる

※掘削深が深いため、第 2 層は排出土の観察による

第25図　北村遺跡土層概念図

1　調査区全景（北から）

2　調査区全景（南から）

3　完掘状況（北から）

4　完掘状況（西から）

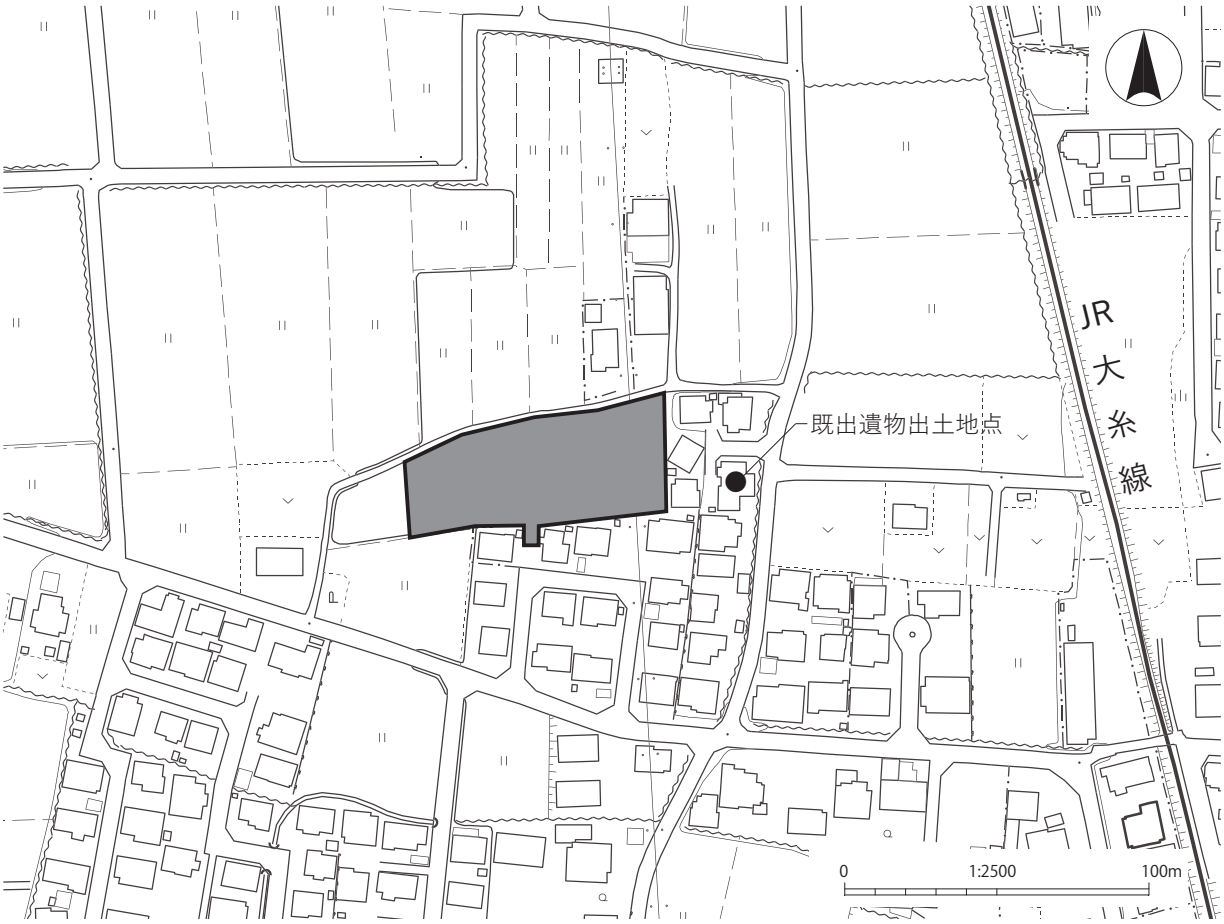
5　完掘状況（南から）

6　調査区南壁

7　埋戻し状況（北から）

8　埋戻し状況（南から）

8　柏原（かしわばら）遺跡（第１表■123）



第26図　柏原遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市穂高柏原1787番２	調査面積	２㎡
調査期間	平成30年（2018）11月29日（木）	調査契機	宅地造成
調査参加者	土屋和章、横山幸子、細尾みよ子、田多井智恵、宮下智美、望月裕子		

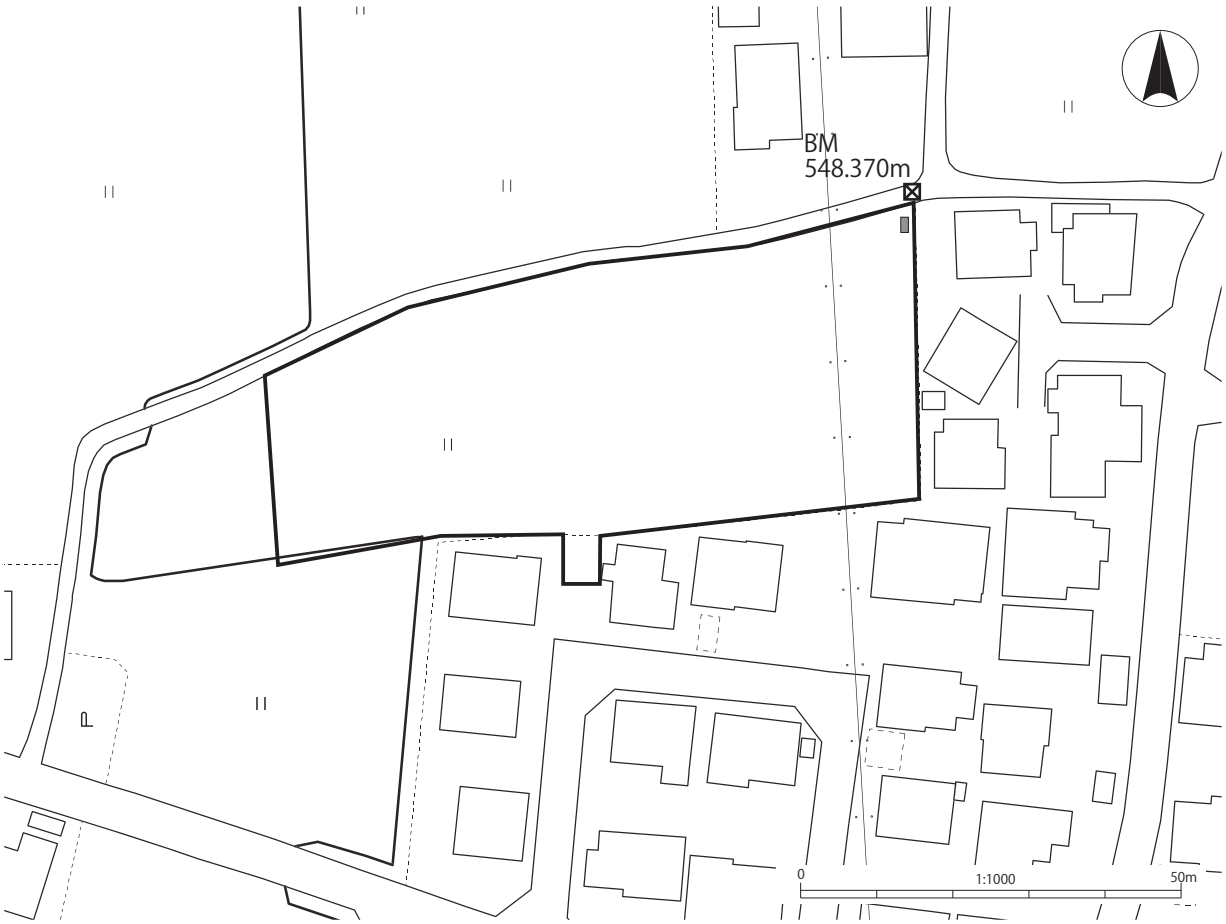
（１）概要

柏原遺跡は、烏川（からすがわ）扇状地の扇央に所在する古代の集落跡である。この遺跡では、過去に土師器を主体とした採集遺物があるが、遺構の分布及び深度等は不明である。

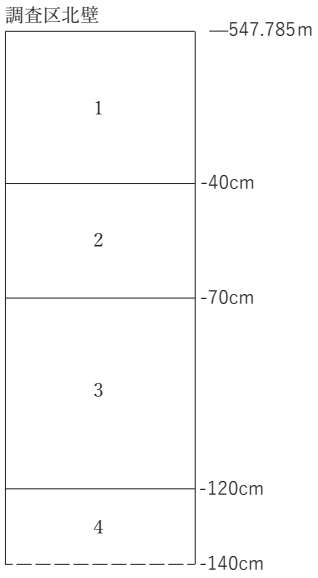
今回の施工地の北東一画が周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲であるため、浸透桝設置箇所で試掘調査を実施した。調査の結果、旧耕作土の下に層厚約30cm の礫層と層厚約50cm のシルト層、さらに下位に最大径20cm の礫を包含する礫層を確認した。第１層及び第２層に、摩耗した土器微細片（時期不明）が少量混入していたが、遺構は存在していない。

上記の結果から、個人住宅の基礎掘削では埋蔵文化財に新規の影響を与えることはないと判断した。

なお、今回の報告では、今回調査地から南東約40m の地点で出土したとされる柏原遺跡既出遺物を掲載する。



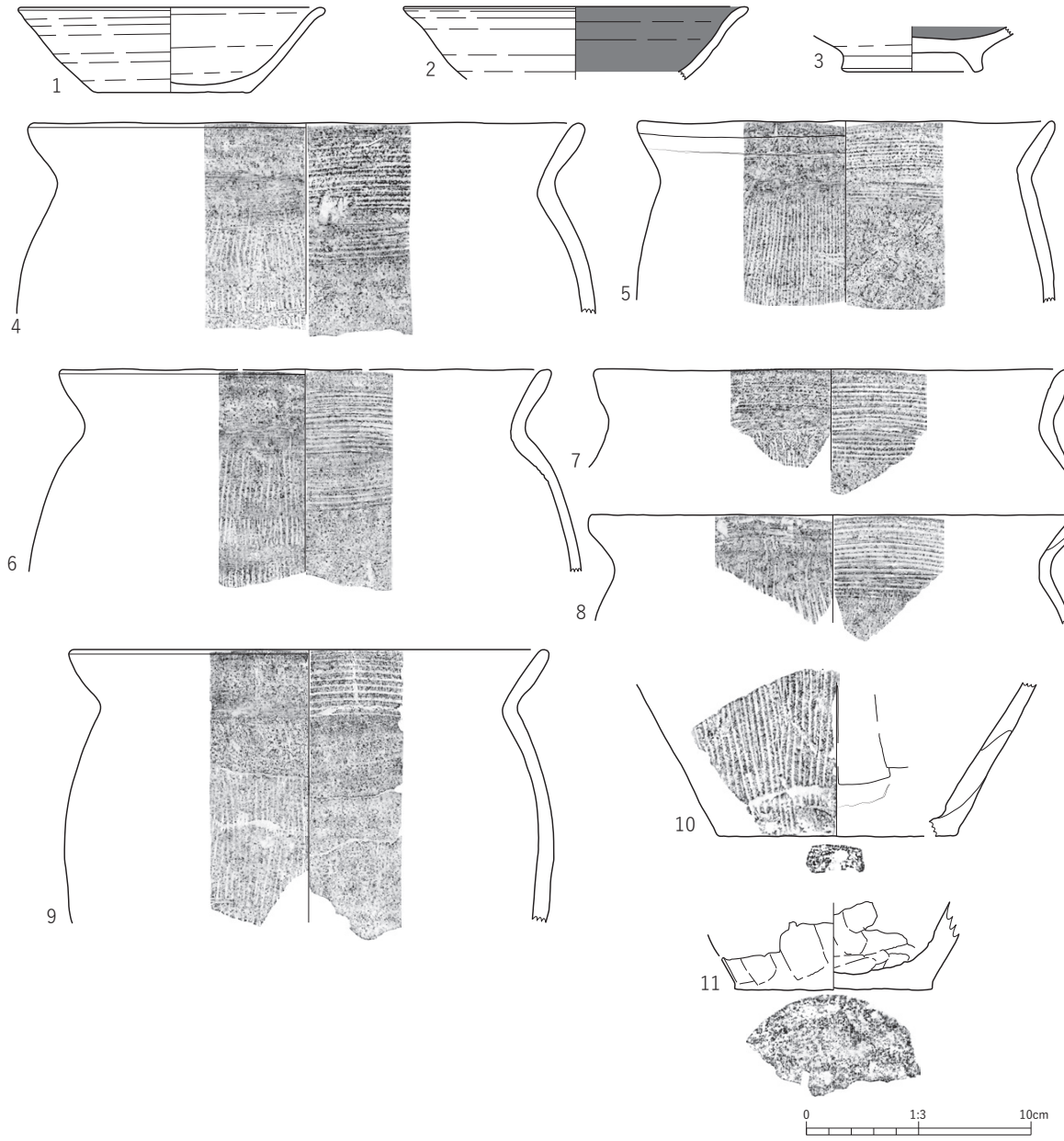
第27図　柏原遺跡トレンチ配置図



1, 耕作土
　摩耗した微細な土器片（時期不明）を含む
2,10YR3/4 暗褐色礫
　しまり弱、粘性中
　基質は極細粒砂で、基質支持
　最大径 10cm、平均径 3cm の円礫～亜円礫からなる
　摩耗した微細な土器片を含む
3,10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
　しまり弱、粘性中
　全体的に均質
4,10YR4/4 褐色礫
　しまり弱、粘性弱
　基質は中粒砂で、礫支持
　最大径20cm、平均径5cmの亜円礫からなる

第28図　柏原遺跡土層概念図

（２）既出遺物

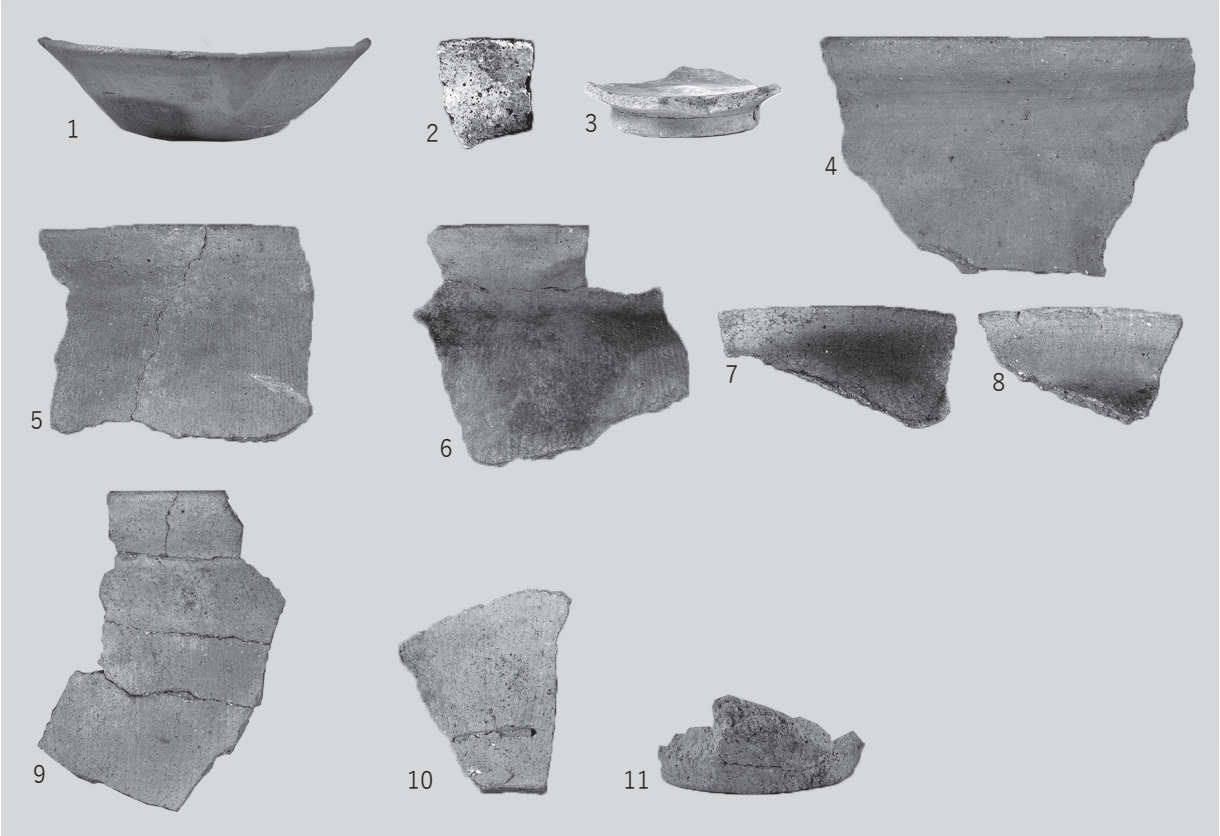


第29図　柏原遺跡既出土器

今回掲載する既出遺物は、11点である。これは、安曇野市穂高柏原1786番４で採集されたもので、詳細経緯は不明である。この資料についての器種分類は、本書第３表（p.49）に準じる。

１は、土師器坏Ａで黒斑を有する。口径は13.7cm である。２・３は、黒色土器Ａ埦Ａである。体部から口縁部に向かって直線的に伸びる器形と、やや長めの高台が外側に張る器形が特徴で、この２点は同一個体の可能性が高い。４～11は、土師器甕である。このうち、４～10はハケメ調整を有する土師器甕Ｂで、口縁部の丁寧な面取り、最大径を体部上半に有する点が共通する。なお、６～８は同一個体である。11は、土師器甕の底部で、内外面にナデ調整を施す。残存箇所が少ないため、ナデ調整を有する土師器甕Ａとした。

土師器坏・甕の特徴、黒色土器Ａ埦Ａの存在から、本資料は松本平古代８期に比定できる。



第30図　柏原遺跡既出土器写真

第２表　柏原遺跡既出土器観察表

No.	遺構	層位	種別	器種	残存部位	口径(cm)	実／復	底径(cm)	実／復	器高(cm)	完／残	技法の特徴			備考
												外面	内面	底部	
1	不明	不明	土師器	坏A	口縁部～底部	13.7	復元	6.8	実測	3.8	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	胎土に細礫を多く含む、全体的にいびつ、黒斑あり
2	不明	不明	黒色土器A	埦A	口縁部～体部	15.4	復元	不明	—	3.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ＋ミガキ＋黒色	不明	胎土に細礫多く見える、３と同一個体か
3	不明	不明	黒色土器A	埦	体部～底部	不明	—	6.3	実測	2.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ＋ミガキ＋黒色	回転糸切り	底部ロクロ目明瞭、付け高台、２と同一個体か
4	不明	不明	土師器	甕B	口縁部～体部	24.8	復元	不明	—	25.8	残存	ナデ＋ハケメ	ナデ＋ハケメ	不明	胎土に細礫含む、外面ハケ単位８/1.6cm、内面ハケ単位８/２cm
5	不明	不明	土師器	甕B	口縁部～体部	18.6	復元	不明	—	8.1	残存	ナデ＋ハケメ	ナデ＋ハケメ・ナデ	不明	輪積跡あり、胎土に細礫含む、外面ハケ単位10/1.4cm、内面ハケ単位８/1.3cm
6	不明	不明	土師器	甕B	口縁部～体部	22.0	復元	不明	—	9.0	残存	ナデ＋ハケメ	ナデ＋ハケメ	不明	胎土に白い細礫含む、外面ハケ単位８/1.5cm、内面ハケ単位６/1.3cm、６・７・８は同一個体
7	不明	不明	土師器	甕B	口縁部～体部	21.2	復元	不明	—	4.5	残存	ナデ＋ハケメ	ナデ+ハケメ	不明	胎土に細礫多く見える、６・７・８は同一個体
8	不明	不明	土師器	甕B	口縁部～体部	21.8	復元	不明	—	4.8	残存	ナデ+ハケメ	ナデ＋ハケメ	不明	胎土に細礫多く見える、輪積跡あり、外面ハケ単位６/1.7cm、内面ハケ単位５/0.9cm、６・７・８は同一個体
9	不明	不明	土師器	甕B	口縁部～体部	21.4	復元	不明	—	12.2	残存	ナデ＋ハケメ	ナデ＋ハケメ・横ナデ	不明	外面ハケ単位８/1.7cm、内面ハケ単位９/2.1cm
10	不明	不明	土師器	甕B	体部～底部	不明	—	10.6	復元	6.9	残存	ナデ＋ハケメ	工具ナデ	ナデ	輪積跡あり、外面ハケ単位５/1.1cm
11	不明	不明	土師器	甕A	体部～底部	不明	—	8.8	復元	3.9	残存	ナデ	ナデ	ナデ	内面粗いナデ

1　調査地遠景（西から）

2　調査地遠景（北から）

3　完掘状況（北から）

4　完掘状況（東から）

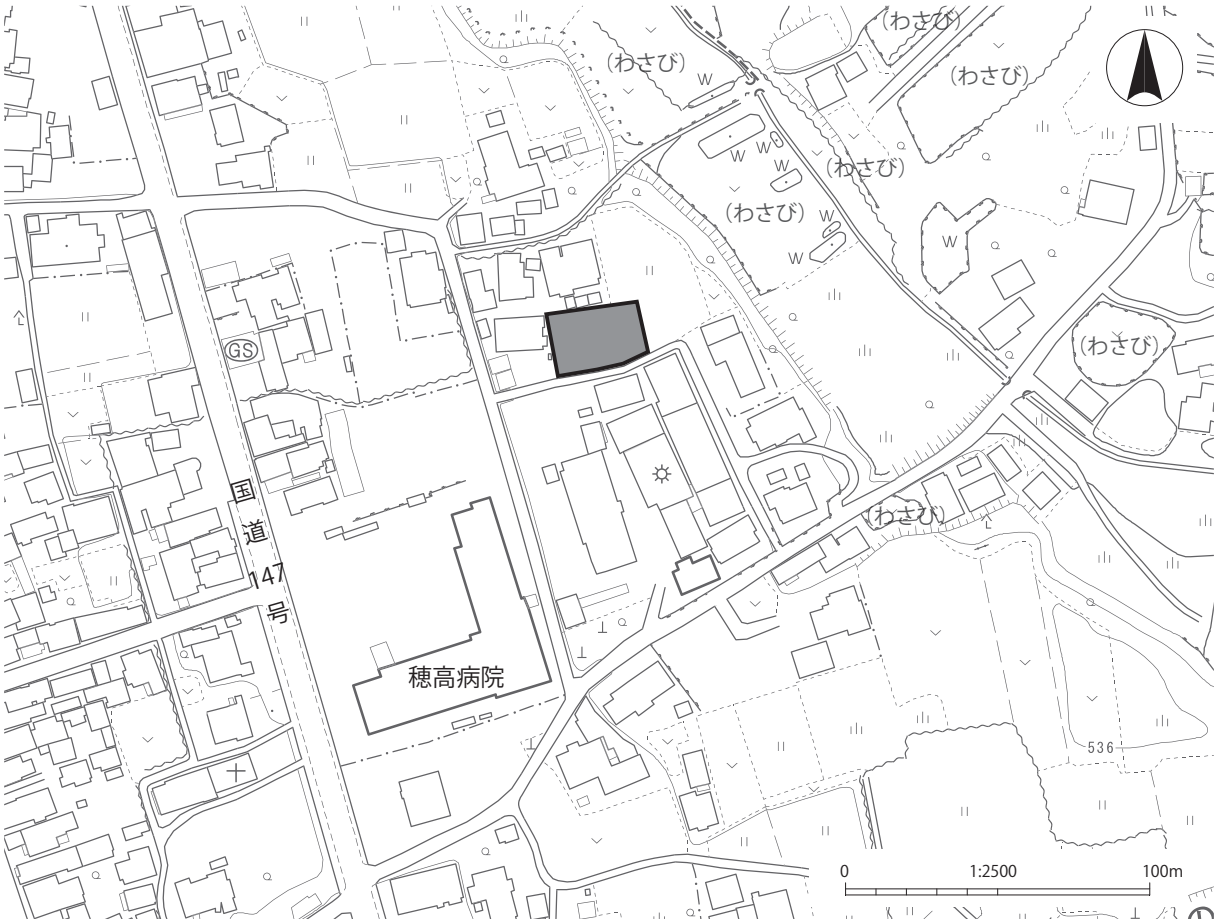
5　完掘状況遠景（北東から）

6　トレンチ北壁

7　トレンチ北壁

8　掘削底面礫確認状況（南から）

9　等々力町巾上巾下遺跡（第１表■124）



第31図　等々力町巾上巾下遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市穂高4614番４	調査面積	15㎡
調査期間	平成30年（2018）12月３日（月）	調査契機	工場
調査参加者	土屋和章、横山幸子、白鳥章、田多井智恵、宮下智美		

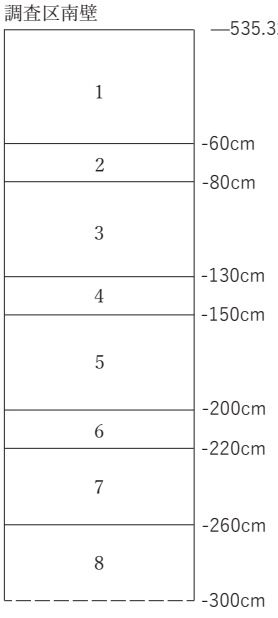
（１）概要

等々力町巾上巾下遺跡は、烏川扇状地の扇端に所在する縄文・弥生・平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに２次の発掘調査を実施しており、弥生・奈良・平安時代の集落跡及び中世の遺物を確認した（安曇野市教委2018）。第２次調査での遺構深度は、中世が80cm、弥生時代後期が180cm である。

今回の試掘調査は、浸透桝設置箇所で実施した。地表下300cm まで掘削したところ、60～130cm にシルト、130～260cm に砂とシルトの互層、260～300cm に粘土の堆積を確認した。いずれの層でも、遺構・遺物は確認していない。

上記の結果から、本件事業地内に遺構等が存在する可能性は極めて低く、工事が埋蔵文化財に新規の影響を与えることはないと判断した。

第32図　等々力町巾上巾下遺跡トレンチ配置図



1, 造成土
2, 赤褐色シルト
　しまり中、粘性中
　酸化鉄を含む
3, にぶい黄褐色シルト
　しまり弱、粘性中
4, 明灰色砂
　しまり弱、粘性弱
5, 黄褐色シルト
　しまり弱、粘性中
　上部に鉄が濃集する
6, 明灰色砂
　しまり弱、粘性弱
7,黄褐色シルト
　しまり弱、粘性中
　上部に鉄が濃集する
8,10YR2/1黒色粘土
　しまり中、粘性強

※ 掘削深度が深いため、土層観察は地上からの目視で行った
　第8層は排出土の観察による

第33図　等々力町巾上巾下遺跡土層概念図

1　調査地全景（西から）

2　調査地遠景（東から）

3　完掘状況（西から）

4　完掘状況（北西から）

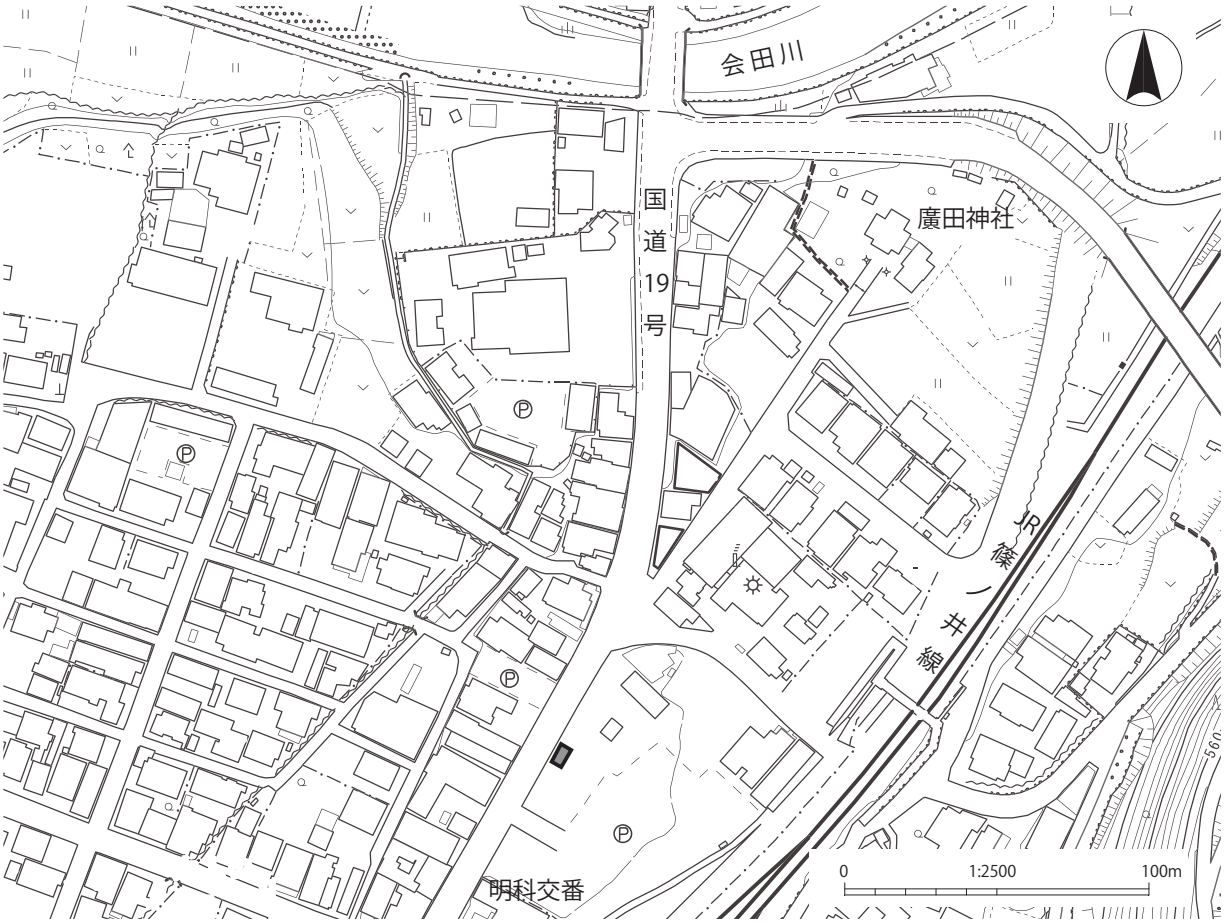
5　完掘状況（東から）

6　調査区南壁

7　埋戻し状況（西から）

8　埋戻し状況（南東から）

10　明科遺跡群栄町遺跡（第１表■133）



第34図　栄町遺跡試掘位置図

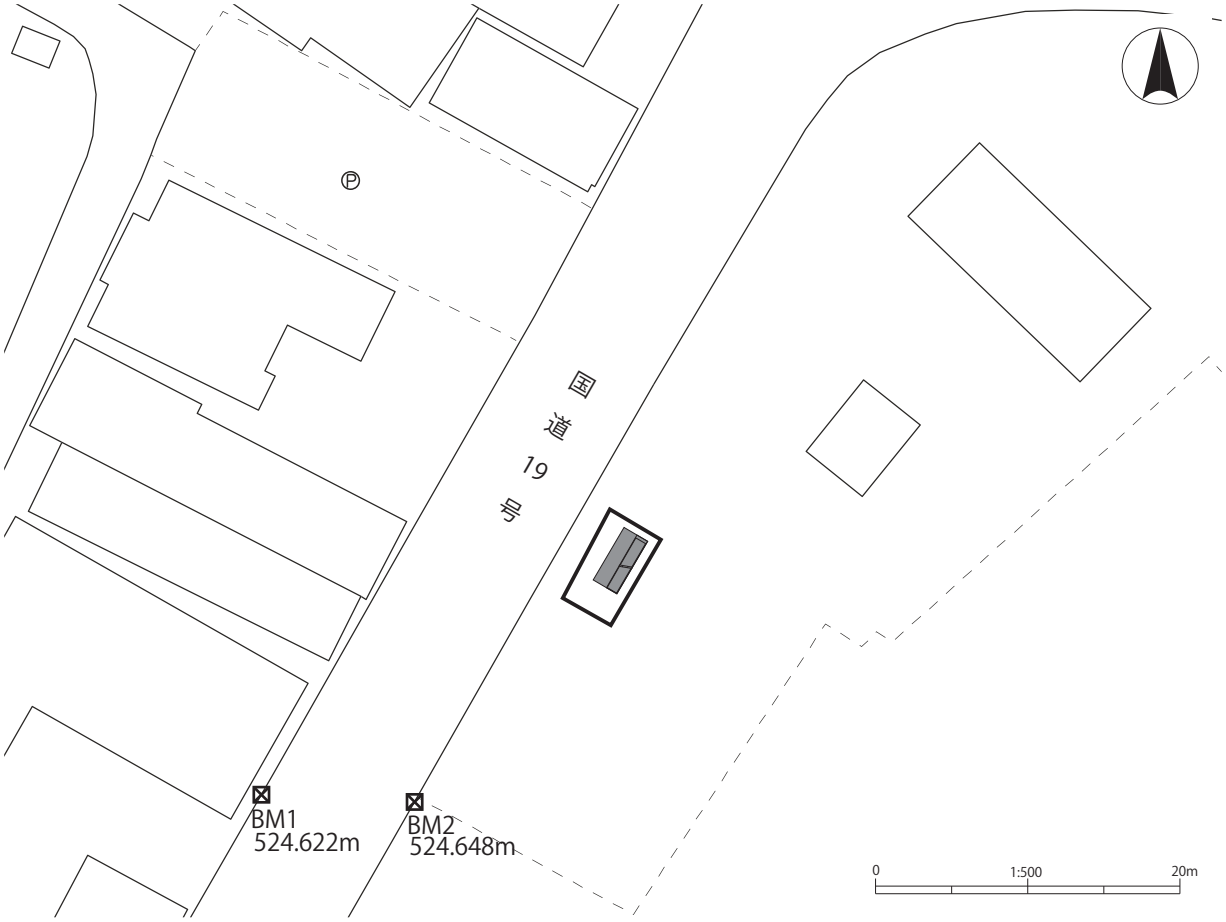
所在地	安曇野市明科中川手3991番11	調査面積	７㎡
調査期間	平成30年（2018）12月25日（火）	調査契機	道路
調査参加者	土屋和章、横山幸子、田多井智恵		

（１）概要

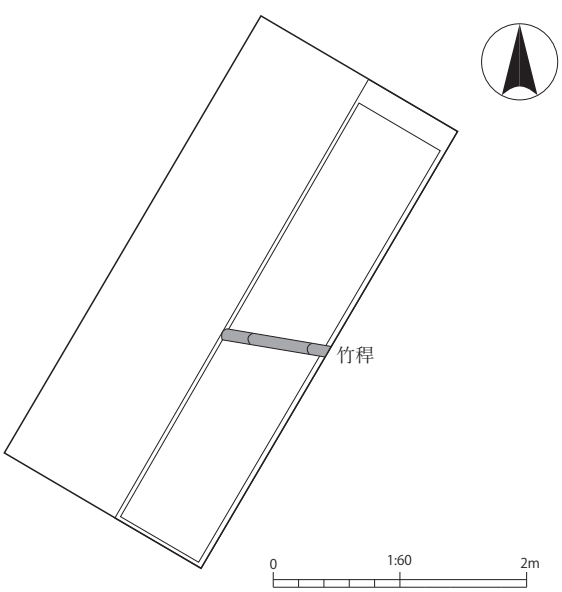
栄町遺跡は、犀川右岸の河岸段丘上に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに４次の発掘調査を実施しており、古墳時代後期の大規模な集落跡の存在を確認した（安曇野市教委2013、2014）。

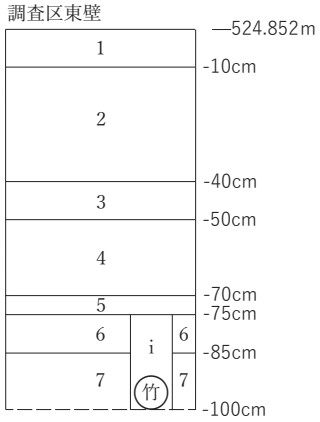
今回の試掘は、国道19号線改良工事にかかる調査である。調査の結果、地表下40cmで焼土を多く混入する赤色土層を確認した。明治～大正時代に、一帯で発生した火災の痕跡の可能性が高い。深度100cmまで掘削したところ、40cm以深ではシルト及び粘土の堆積を確認した。この中で、深度80cm付近で竹の稈が埋設されていたが、時期特定はできていない。

上記の結果から、明確に中世以前に比定できる遺構・遺物は確認していないが、火災層及び竹稈に関しては、周辺の調査事例を増やし、総合的に検討する必要がある。



第35図　栄町遺跡トレンチ配置図





1, 砕石
2, 撹乱
　白色粒が混じり、礫が膠着し
　発泡したような数 cm の塊を含む
3,10YR4/6 褐色シルト
　しまり弱、粘性強
　赤みが強く、周囲と明瞭に判別できる
　焼土か
4,10YR3/1 黒褐色粘土
　しまり強、粘性強
　炭化物を含む
5,10YR4/2灰黄褐色粘土
　しまり強、粘性強
　黄色味の強い部分を斑状に含むが、
　境界は不明瞭
6,10YR3/1黒褐色粘土
　しまり強、粘性強
　径3cmまでの暗色部を
　わずかに含む
7,10YR4/2灰黄褐色粘土
　しまり強、粘性強
　全体的に均質

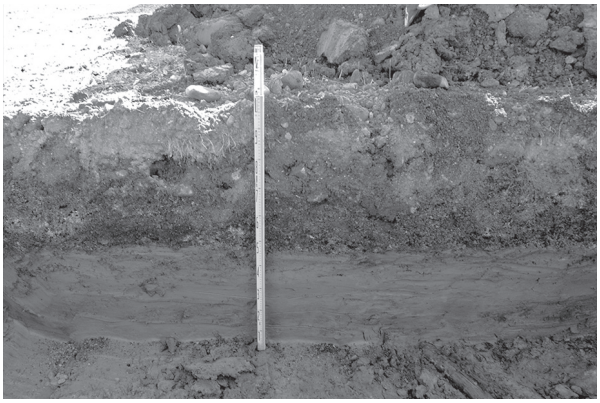
i, 10YR3/1黒褐色粘土
　しまり中、粘性強
　第6層と第7層を掘り込む
　竹稈が出土
　竹稈の周辺に炭化物を含む

第36図　栄町遺跡トレンチ概要図

1　調査地全景（北から）

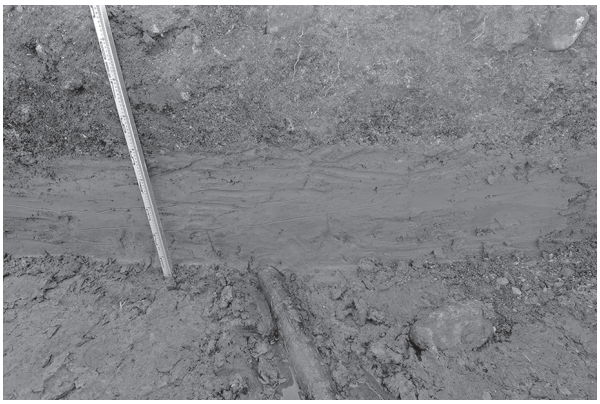
2　調査地遠景（南から）

3　完掘状況（北から）



4　調査区東壁

5　竹稈出土状況（北から）



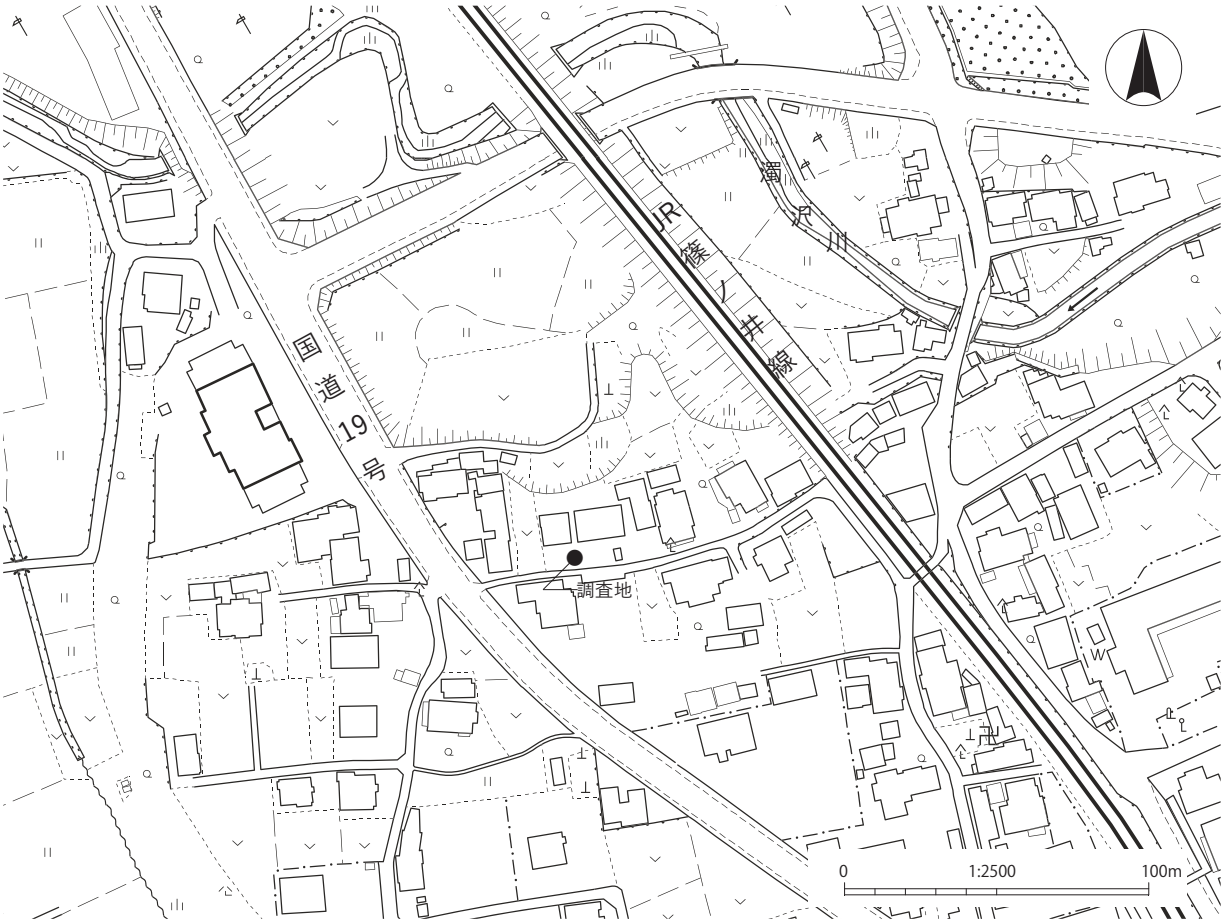
6　竹稈出土地点東壁

7　竹稈炭化物付着状況

8　埋戻し状況（北から）

第３章　工事立会

１　小瀬幅（こせはば）遺跡（第１表●136）



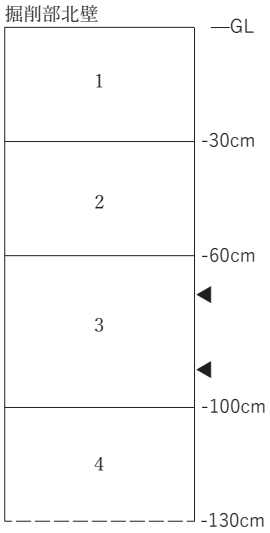
第37図　小瀬幅遺跡工事立会位置図

所在地	安曇野市豊科田沢4837番３外３筆	調査面積	１㎡
調査期間	平成30年（2018）12月27日（木）	調査契機	ガス・水道・電気等
調査参加者	横山幸子、田多井智恵、宮下智美、望月裕子		

（１）概要

小瀬幅遺跡は、犀川右岸の河岸段丘上に所在する弥生及び平安時代の散布地である。この遺跡では、これまでに１次の発掘調査を実施したほか、表面採集遺物を報告した（安曇野市教委2019a）。

今回の調査は、電柱及び支線設置の際の掘削に伴うものである。長野県教委指示では慎重工事となった件であるが、施工中に土器が出土したため、安曇野市教委が緊急で工事立会を実施し、記録作成を実施した。出土遺物は平安時代の土師器羽釜で、出土位置は深度60～100cm の褐色粘土中である。出土土器は、摩耗が著しく接合ができない状況であった。掘削面積が狭小なため遺構等は確認できていないが、周囲に当該期の遺構が存在する可能性が高い。



1, 造成土
2,10YR3/3 暗褐色シルト
しまり中、粘性中
3,10YR4/4 褐色粘土
しまり強、粘性強
遺物片、炭化物を含む
4, 礫
しまり中、粘性弱
最大径 10cm、平均径 1cm の円礫からなる
水が染み出る

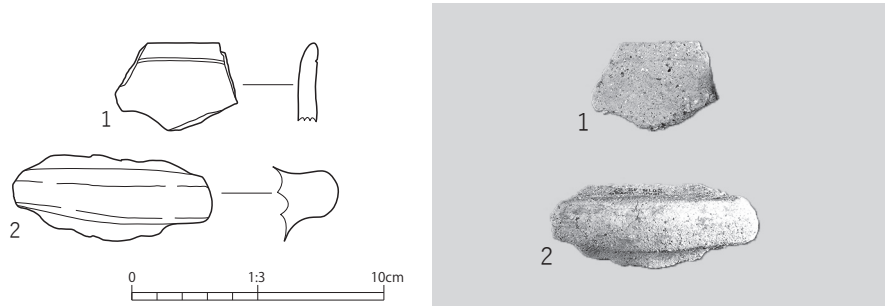
※掘削面積狭小のため、第3層、第4層は排土観察による
※◀は遺物確認位置

第38図　小瀬幅遺跡土層概念図

（２）遺物

本件工事立会で出土した土師器破片のうち、資料化可能である２点を掲載する。破片数は多いが、胎土・焼成及び器形・調整の特徴から全て同一個体で、土師器羽釜と判断した。

１は、口縁部破片である。わずかに外反する口縁端部直下に幅約１mm で断面が浅いＶ字形の横走沈線を１条もつ。胎土には、細礫が目立つ。２は、羽釜の鍔の部分である。断面観察から、胴部に貼り付け後に上下端を丁寧にナデ調整していることがわかる。１と同様に、胎土に細礫が目立つ。



第39図　小瀬幅遺跡出土土器

１　調査地近景（東から）

２　調査状況（南東から）

2　追堀（おっぽり）遺跡（第１表●147）

第40図　追堀遺跡工事立会位置図

所在地	安曇野市穂高柏原1583番１外１筆	調査面積	５㎡
調査期間	平成31年（2019）１月25日（金）	調査契機	宅地造成
調査参加者	土屋和章、田多井智恵、宮下智美、望月裕子		

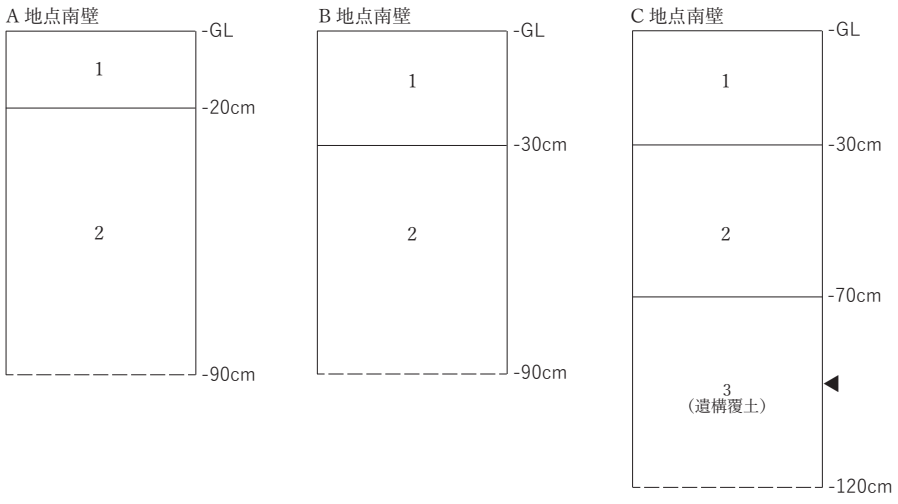
（１）概要

追堀遺跡は、烏川扇状地の扇央に所在する平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに１次の発掘調査を実施したほか、試掘・工事立会等で遺構・遺物の分布が明らかになりつつある（安曇野市教委2019a）。

今回の調査は、宅地造成に伴うものである。工事立会では、３箇所で土層観察を実施した。基本層序は、表土下にシルトの堆積である。土層観察地点のうち上下水道管敷設箇所であるＣ地点では、深度70cm 付近のシルト中で人為的な掘り込みを確認し、覆土中から平安時代の土師器・須恵器が多量に出土した。

上記の結果から、本件施工地内では平安時代の遺構が良好に残存していることを確認した。このため、今後の土木工事等には留意が必要である。

第41図　追堀遺跡土層観察地点配置図



1, 耕作土
2,10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
しまり中、粘性中
土師器小片をごく少量含む
炭化物を少量含む
3,10YR4/3 にぶい黄褐色礫混シルト
しまり中、粘性中
径 5 ～ 15cm の亜円礫を若干含む

※ ◀は遺物確認位置

第42図　追堀遺跡土層概念図

（２）遺構

C 地点は上下水道管敷設箇所であるため、掘削幅約70cm と狭小で、遺構の平面形は確認できていない。後述する出土土器類の特徴から、竪穴建物跡の可能性が高いが、墓の可能性もある。

（３）遺物

今回の調査で出土した遺物のうち、土器類43点を資料化した。全資料が同一地点・同一層位から出土したため、一括資料としての価値を有する。器種分類は、中央自動車道関連埋蔵文化財発掘調査の所見（小平1990）を基本にして、以下のとおりとした。

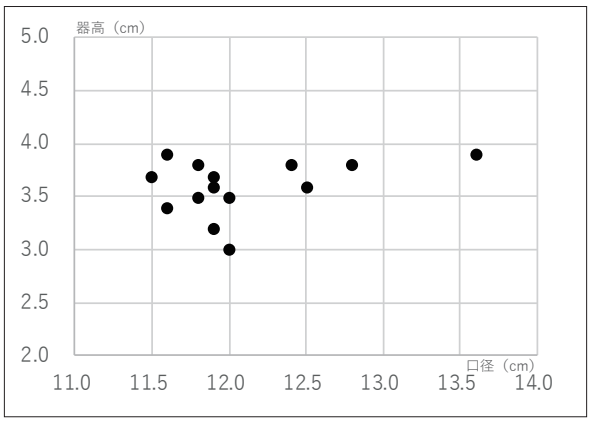
第３表　器種分類

種類	種別	器種	説明
食膳具	土師器	坏 A	ロクロ成形で体部から口縁部にかけて直線的に開く。
		椀 A	体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。高台は長く外傾する傾向がある。
		椀	椀のうち、残存状況が悪く詳細な形態が不明確なもの。
		盤 A	ロクロ調整で口径30～50cm の大型の器。高い脚台をもつ。
	黒色土器 A	坏 A	ロクロ成形の内面黒色土器で、体部から口縁部にかけて直線的に開く。
煮炊具	土師器	甕 A	長胴甕で、輪積み成形の後、内外面をナデ調整するもの。
		甕 B	長胴甕で、器面をハケメで調整するもの。
		甕 F	球形胴の背の低い甕。器面をヘラミガキするものが多いが、ナデ調整するものもある。
		甕	甕のうち、残存状況が悪く詳細な形態が不明確なもの。
貯蔵具	須恵器	甕 A	主として卵型の体部を持ち、外面にタタキ目、内面は当て具痕またはナデ調整を観察できる。
		甕 B	卵形の体部に直立する短い口頸部を付するもの。肩に双耳あるいは四耳を付する。
		甕	甕のうち、残存状況が悪く詳細な形態が不明確なもの。
	灰釉陶器	壺	灰釉陶器のうち、壺形の体部を持つもの。残存状況が悪く詳細な形態は不明確である。

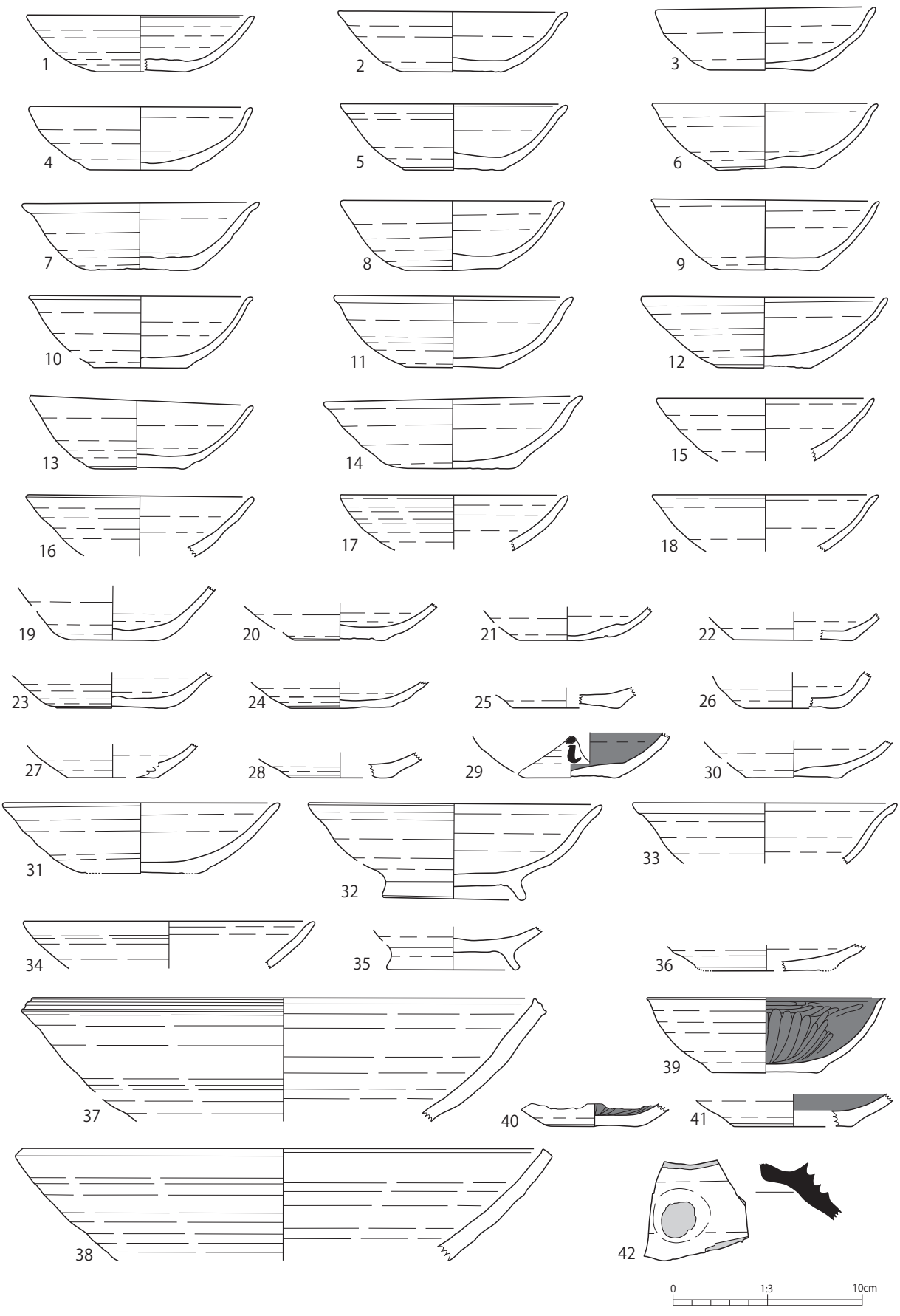
出土した土器類は、口径11.5～13.6cm の土師器坏が主体的で30点を資料化した。今回の分類では、黒斑を有する坏も土師器とし、黒斑の有無を第４表の備考欄に記載した。坏以外に６点の椀も存在する。特徴的な器形としては、土師器盤 A が２点出土した。いずれも口径28cm 前後である。土師器以外には、黒色土器 A 坏 A、須恵器甕の体部破片が出土した。ただし、灰釉陶器は伴わない。

次に、土師器坏の口径・器高について、口径・器高がわかる14点の法量散布を第43図にまとめた。ここに、口径だけ判明している４点を加えると、本資料群は口径11.5～13.6cm（N=18、平均12.04cm、標準偏差0.51）、器高3.0～3.9cm（N=14、平均3.60、標準偏差0.26）に分布する。

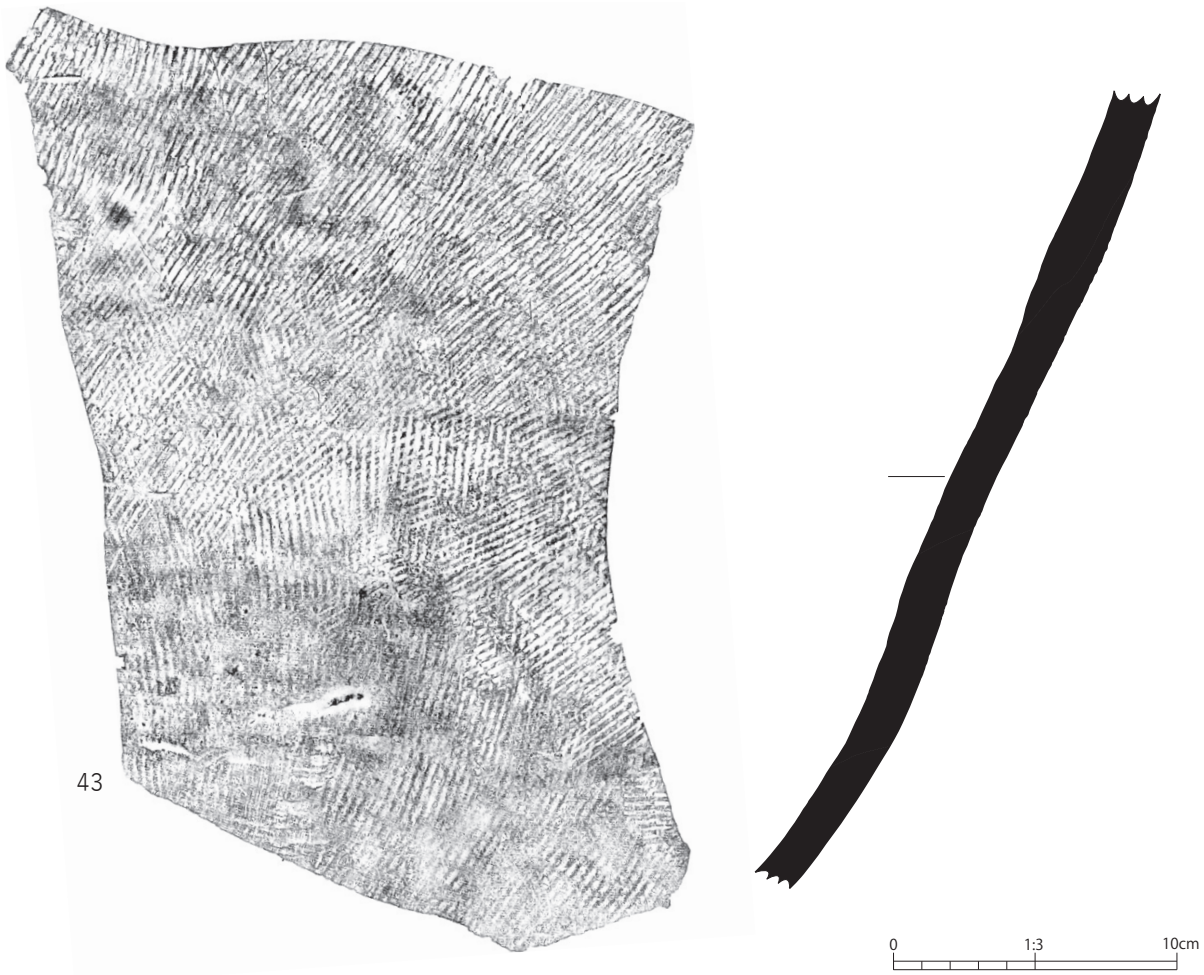
上記の土器組成と法量分布から、本件資料群は松本平古代９期に比定できる。



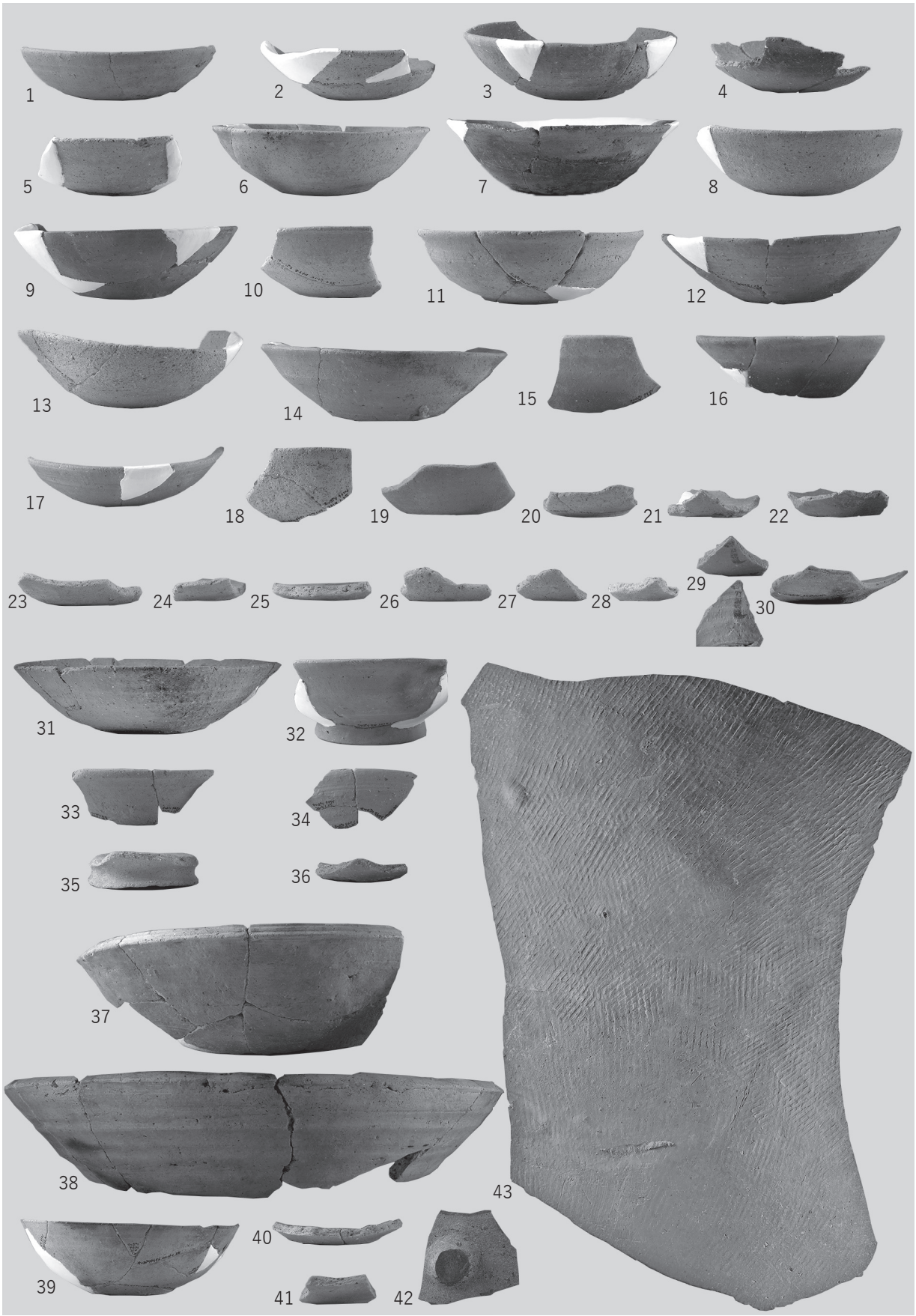
第43図　土師器坏 A 法量分布



第44図　追堀遺跡出土土器 1



第45図　追堀遺跡出土土器２



第46図　追堀遺跡出土土器写真

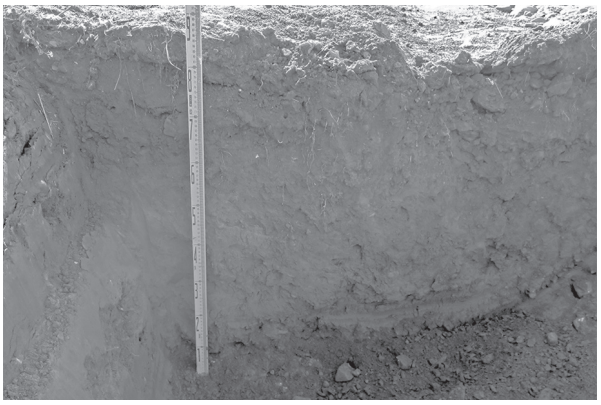
第４表　追堀遺跡出土土器観察表

No.	遺構	層位	種別	器種	残存部位	口径(cm)	実／復	底径(cm)	実／復	器高(cm)	完／残	技法の特徴			備考
												外面	内面	底部	
1	不明	不明	土師器	坏A	口縁部～底部	12.0	復元	4.6	復元	3.0	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	内面に黒斑、17と同一個体か
2	不明	不明	土師器	坏A	口縁部～底部	11.9	復元	5.2	復元	3.2	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	外面に大き目の細礫（雲母）多く含む、底部ロクロ目明瞭
3	不明	不明	土師器	坏A	口縁部～底部	11.6	復元	5.5	復元	3.4	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	内外面黒斑あり、全体的に砂粒多い
4	不明	不明	土師器	坏A	口縁部～底部	11.8	復元	5.5	復元	3.5	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	胎土に細礫（長石、雲母）含む、胎土赤褐色、内外面に黒斑あり
5	不明	不明	土師器	坏A	口縁部～底部	12.0	復元	5.2	復元	3.5	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	胎土に細礫（長石、雲母）含む、底部ロクロ目明瞭、底部に大きな礫あり
6	不明	不明	土師器	坏A	口縁部～底部	11.9	復元	5.0	実測	3.6	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	細礫多く含む、内面および底部に黒斑、底部ロクロ目明瞭
7	不明	不明	土師器	坏A	口縁部～底部	12.5	復元	4.8	実測	3.6	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	内外面に黒斑、底部ロクロ目明瞭
8	不明	不明	土師器	坏A	口縁部～底部	11.5	復元	4.8	実測	3.7	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	口縁の内側ぷっくりしている、細礫多く含む（雲母、長石、石英）
9	不明	不明	土師器	坏A	口縁部～底部	11.9	復元	5.3	実測	3.7	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	胎土内面赤褐色、口縁に黒斑あり、底部ロクロ目明瞭
10	不明	不明	土師器	坏A	口縁部～底部	11.8	復元	5.0	復元	3.8	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	外面摩耗強い
11	不明	不明	土師器	坏A	口縁部～底部	12.4	復元	5.0	復元	3.8	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	内面・底部に黒斑あり、細礫（雲母）多く含む
12	不明	不明	土師器	坏A	口縁部～底部	12.8	復元	4.8	復元	3.8	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	細礫多く含む（長石、雲母、石英）、内外面に黒斑あり、底部ロクロ目明瞭
13	不明	不明	土師器	坏A	口縁部～底部	11.6	復元	4.6	復元	3.9	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	全体的に摩耗強、細礫（石英、長石類）多く含む、内外面に黒斑あり、底部ロクロ目明瞭
14	不明	不明	土師器	坏A	口縁部～底部	13.6	復元	6.6	実測	3.9	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	内外面に黒斑あり、底部ロクロ目明瞭、胎土赤褐色強い
15	不明	不明	土師器	坏A	口縁部～体部	11.5	復元	不明	—	3.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	胎土に赤い細礫含む、内外面に黒斑あり、16と同一個体か
16	不明	不明	土師器	坏A	口縁部～体部	12.0	復元	不明	—	3.2	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	内外面に黒斑あり、15と同一個体か
17	不明	不明	土師器	坏A	口縁部～体部	12.0	復元	不明	—	2.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	口縁歪んでいる、ロクロ目明瞭、１と同一個体か
18	不明	不明	土師器	坏A	口縁部～体部	12.0	復元	不明	—	3.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	内外面に黒斑あり、胎土に細礫多く含む、全体的に摩耗している
19	不明	不明	土師器	坏A	体部～底部	不明	—	4.5	実測	2.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	胎土赤褐色強め、内外面に黒斑あり、内外面とも摩耗強
20	不明	不明	土師器	坏A	体部～底部	不明	—	4.8	復元	2.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	胎土に細礫（石英、長石、雲母）含む、雲母が多い、底部ロクロ目明瞭
21	不明	不明	土師器	坏A	体部～底部	不明	—	5.0	復元	1.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	全体的に歪む、底部ロクロ目明瞭
22	不明	不明	土師器	坏A	体部～底部	不明	—	6.4	復元	1.5	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	外面に黒斑あり、底部凹凸強い
23	不明	不明	土師器	坏A	体部～底部	不明	—	5.8	復元	1.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	底部歪んでいる、底部と内面に黒斑あり、24と胎土似る
24	不明	不明	土師器	坏A	体部～底部	不明	—	5.7	復元	1.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	赤い細礫多く含む、底部歪んでいる、底部ロクロ目明瞭、23と胎土似る
25	不明	不明	土師器	坏A	体部～底部	不明	—	5.6	復元	1.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	胎土に細礫（長石など）含む、底部上げ底状になる、胎土乳灰色、内外面に炭痕あり
26	不明	不明	土師器	坏A	体部～底部	不明	—	5.2	復元	1.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	胎土に大き目の細礫含む、内面にスス付着、糸切痕いびつ
27	不明	不明	土師器	坏A	体部～底部	不明	—	4.8	復元	1.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	胎土に細礫多く含む、底部ロクロ目明瞭
28	不明	不明	土師器	坏A	体部～底部	不明	—	5.3	復元	1.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	底部凹凸強い
29	不明	不明	土師器	坏A	体部～底部	不明	—	5.5	復元	2.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	墨書土器、胎土に細礫多く含む、底部ロクロ目明瞭、内外面に黒斑あり
30	不明	不明	土師器	坏A	体部～底部	不明	—	5.0	実測	2.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	内外面に黒斑あり、摩耗強、胎土中に細礫あり
31	不明	不明	土師器	埦A	口縁部～底部	14.6	実測	6.0	復元	3.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	高台貼り付け痕あり、内外面に黒斑あり、胎土赤褐色強い、細礫（石英、雲母、長石）多く含む
32	不明	不明	土師器	埦A	口縁部～体部	15.6	復元	7.5	実測	5.1	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	高台短め、底部ロクロ目明瞭、底部に細礫による穴あり、口縁から体部に黒斑あり
33	不明	不明	土師器	埦A	口縁部～体部	14.0	復元	不明	—	3.2	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	赤い細礫多く含む、口縁下（外面）に強いロクロナデ
34	不明	不明	土師器	埦A	口縁部～体部	15.4	復元	不明	—	2.5	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	胎土に細礫多く含む、36と同一個体か
35	不明	不明	土師器	埦A	体部～底部	不明	—	7.0	実測	2.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	高台強く外反する、胎土に細礫（長石、石英、雲母）多く含む
36	不明	不明	土師器	埦	体部～底部	不明	—	7.4	復元	1.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	胎土に細礫（長石、雲母など）多く含む、高台貼り付け痕あり、34と同一個体か

No.	遺構	層位	種別	器種	残存部位	口径（cm）	実／復	底径（cm）	実／復	器高（cm）	完／残	技法の特徴			備考
												外面	内面	底部	
37	不明	不明	土師器	盤A	口縁部～体部	27.8	復元	不明	—	6.5	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	胎土に細礫多く含む、口縁に沈線あり、所々に黒斑あり
38	不明	不明	土師器	盤A	口縁部～体部	28.4	復元	不明	—	5.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	内外面に黒斑あり、全体的にロクロ目明瞭、胎土に細礫含む
39	不明	不明	黒色土器A	坏A	口縁部～底部	12.4	復元	5.7	実測	5.0	完形	ロクロナデ	ロクロナデ＋ミガキ+黒色	回転糸切り	暗文あり、胎土内外ともに赤褐色
40	不明	不明	黒色土器A	坏A	体部～底部	不明	—	5.3	復元	1.2	残存	ロクロナデ	ロクロナデ＋ミガキ+黒色	回転糸切り	暗文あり、底部ロクロ目明瞭
41	不明	不明	黒色土器A	坏A	体部～底部	不明	—	6.3	復元	1.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ＋ミガキ+黒色	回転糸切り	暗文なくミガキ＋黒色処理のみ
42	不明	不明	須恵器	甕B	体部	不明	—	不明	—	3.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	耳貼り付け痕あり
43	不明	不明	須恵器	甕	体部	不明	—	不明	—	28.1	残存	タタキ	ナデ	不明	輪積跡あり

1　A 地点調査状況（南から）

2　A 地点南壁



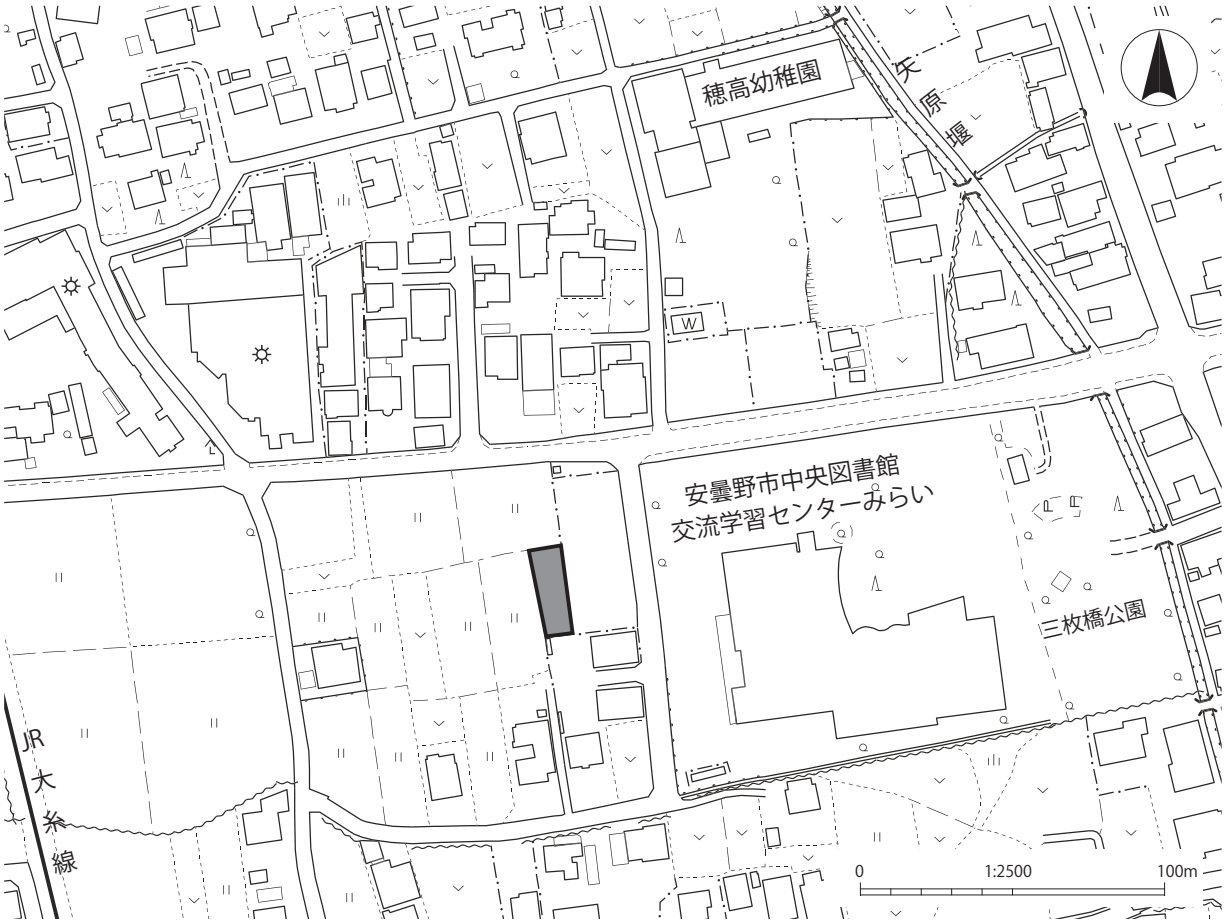
3　B 地点南壁

4　C 地点調査状況（北東から）

5　C 地点調査状況（北東から）

6　C 地点調査状況（東から）

3　藤塚（ふじつか）遺跡（第１表●166）



第47図　藤塚遺跡工事立会位置図

所在地	安曇野市穂高6764番３外１筆	調査面積	５㎡
調査期間	平成31年（2019）２月21日（木）～２月22日（金）	調査契機	駐車場
調査参加者	土屋和章、横山幸子、田多井智恵、宮下智美、望月裕子		

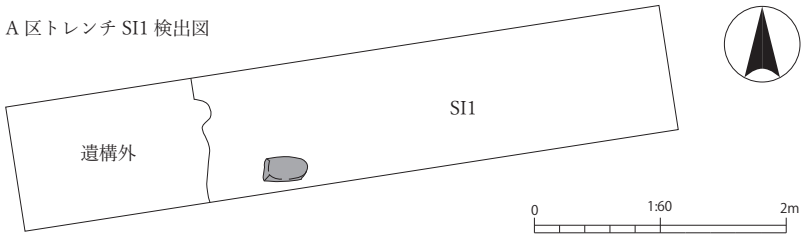
（１）概要

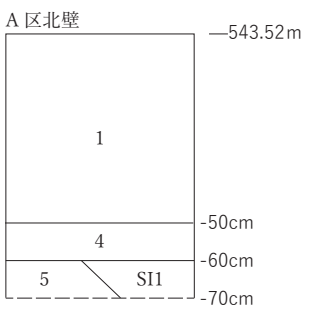
藤塚遺跡は、烏川扇状地の扇央に所在する古墳時代及び平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに２次の発掘調査を実施し、当該期の集落跡を確認している（安曇野市教委2009）。

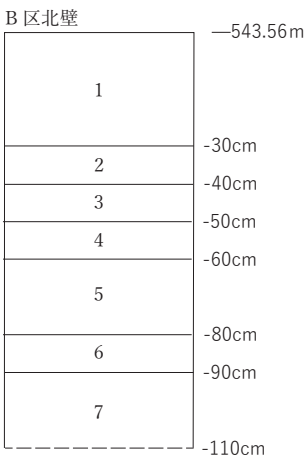
今回の調査は、公共施設の駐車場造成に伴うもので、擁壁及びスロープの設置箇所で土層観察を実施した。このうち、北側のスロープ・擁壁設置箇所で１×５ｍの掘削を実施したところ、深度60cmで人為的な掘り込みを確認した。平面規模は、東西370cm以上で東側が掘削範囲外に延びる。平面形は不明であるが、確認した規模から竪穴建物跡の可能性が高く、遺構名をSI１とした。覆土は粉末状炭化物を多く包含し、土器片も少量出土した。出土土器は、いずれも小破片で詳細な時期は不明であるが、奈良・平安時代に属すると推定できる。

上記の結果から、施工者と保護協議を実施し、設計よりも掘削深度を浅くして遺構を現状保存することとした。

第48図　藤塚遺跡調査区位置図







1, 造成土
2,2.5YR4/2 暗灰黄色砂質シルト
　しまり強、粘性弱
　最大 3cm の円礫を少量含む
　旧耕作土か
3,10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
　しまり強、粘性中
　最大径 3cm の亜円礫を少量含む
4,10YR4/4 褐色シルト
　しまり強、粘性中
　炭化物、摩耗した遺物片を含む
　酸化鉄が濃集する
5,10YR5/6 黄褐色粘土
　しまり強、粘性中
　摩耗した遺物片を含む
6,10YR5/6 黄褐色粘土
　しまり弱、粘性中
　最大径 10cm、平均径 1cm の円礫を含む
7,10YR3/3 暗褐色礫
　しまり弱、粘性中
　基質は中粒砂で、基質支持
　最大径 15cm、平均径 3cm の円礫からなる

SI1,10YR3/3 暗褐色粘土
　しまり中、粘性強
　最大径20cm、平均径3cmの礫を少量含む
　炭化物、遺物片を含む

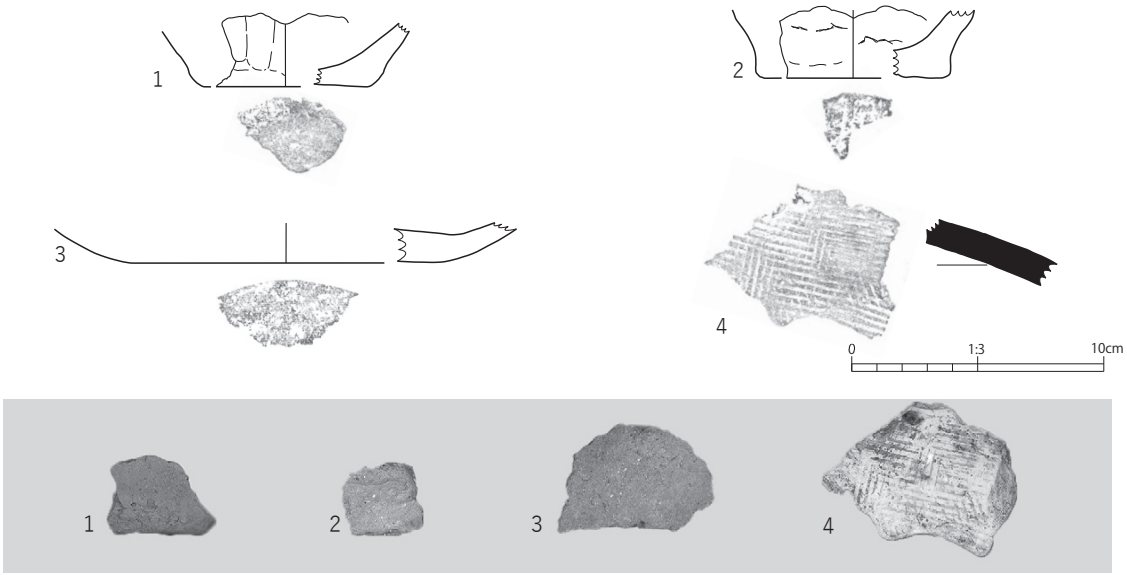
第49図　藤塚遺跡遺構概要図

（２）遺物

藤塚遺跡工事立会で出土した土器は、４点を図示した。器種分類は、本書第３表（p.49）に準じる。

１～３は、土師器甕の底部である。１は、外面の体部下半に縦方向のナデを施す。２は、外面の体部下半に丁寧なナデなどを施していないため、粘土紐積み上げ痕が見える。３は、立ち上がりがなだらかで明確な屈曲点をもたない。４は、須恵器甕の体部上半である。外面にはタタキ目が残り、内面はナデ調整である。

いずれも破片資料で全体がわかる資料ではないため詳細な時期比定はできないが、藤塚遺跡での過去の発掘調査結果から、古墳時代後期～奈良時代の遺物と推定できる。



第50図　藤塚遺跡出土土器

第５表　藤塚遺跡出土土器観察表

No.	遺構	層位	種別	器種	残存部位	口径（cm）	底径（cm）	実・復	器高（cm）	技法の特徴		
										外面	内面	底部
1	SI	不明	土師器	甕	体部～底部	不明	6.6	復元	2.5	ナデ	ナデ	ナデ
2	SI	不明	土師器	甕	体部～底部	不明	7.0	復元	2.7	オサエ	粗いナデ	荒れ
3	SI	不明	土師器	甕Ｆ	体部～底部	不明	12.3	復元	1.6	ナデ	ナデ	ナデ
4	SI	不明	須恵器	甕	体部	不明	不明	不明	2.6	タタキ	指頭圧痕＋ナデ	不明

1　A区遠景（東から）

2　A区近景（西から）

3　A区近景（南東から）

4　A区北壁

5　SI 1検出状況（西から）

6　SI 1調査状況（東から）

7　SI 1調査状況（南西から）

8　B区北壁

引用・参考文献（五十音順）

明科町史編纂会編　1984 『明科町史』上巻　明科町史刊行会

安曇野市教育委員会　2009 『三枚橋・藤塚遺跡―安曇野市穂高交流学習センター建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』安曇野市の埋蔵文化財第２集　安曇野市教育委員会

安曇野市教育委員会　2013 『平成23年度安曇野市埋蔵文化財発掘調査報告書―明科遺跡群古殿屋敷（第１次）・明科遺跡群栄町遺跡（第３次）―』安曇野市の埋蔵文化財第６集　安曇野市教育委員会

安曇野市教育委員会　2014 『平成24年度安曇野市埋蔵文化財発掘調査報告書―明科遺跡群栄町遺跡（第４次）―』安曇野市の埋蔵文化財第７集　安曇野市教育委員会

安曇野市教育委員会　2017 『新林遺跡３―立体駐車場建設に伴う第３次発掘調査報告書―』安曇野市の埋蔵文化財第13集　安曇野市教育委員会

安曇野市教育委員会　2018 『平成28年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書』安曇野市の埋蔵文化財第15集　安曇野市教育委員会

安曇野市教育委員会　2019a 『平成29年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書』安曇野市の埋蔵文化財第17集　安曇野市教育委員会

安曇野市教育委員会　2019b 『潮遺跡群潮神明宮前遺跡３―安曇野市消防団第７分団第１部詰所新築工事に伴う第３次発掘調査報告書―』安曇野市の埋蔵文化財第18集　安曇野市教育委員会

小平和夫　1990 「古代の土器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書４―松本市内その１―総論編』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書４　長野県埋蔵文化財センター　pp.97-158

長野県編　1988 『長野県史 考古資料編』全１巻（４）遺構・遺物　長野県史刊行会

長野県埋蔵文化財センター　1989 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書３―塩尻市内その２―吉田川西遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書３　長野県埋蔵文化財センター

長野県埋蔵文化財センター　1993 『北村遺跡―中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書11（明科町内）―』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書14　長野県埋蔵文化財センター

長野県埋蔵文化財センター　2005 『安曇野農業水利事業あづみ野排水路埋蔵文化財発掘調査報告書―三郷村内―三角原遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書76　長野県埋蔵文化財センター

原明芳　1996 「７　甲信地域の８・９世紀の煮炊具」『古代の土器研究―律令的土器様式の西・東４　煮炊具―』 古代の土器研究会　pp.101-108

松本市教育委員会　2018 『長野県松本市　高畑遺跡　第６次発掘調査報告書』松本市文化財調査報告 No.230　松本市教育委員会

三郷村教育委員会　1999 『三郷村埋蔵文化財（資料集）』三郷村の埋蔵文化財第４集　三郷村教育委員会

三郷村教育委員会　2005 『三郷村埋蔵文化財Ⅱ―発掘調査・試掘調査報告―』三郷村の埋蔵文化財第７集　三郷村教育委員会

調査報告書抄録

ふりがな	へいせい30ねんどあづみのしまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	平成30年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	安曇野市の埋蔵文化財
シリーズ番号	第19集
編著者名	土屋和章、山下泰永
編集機関	安曇野市教育委員会
所在地	〒399-8281　長野県安曇野市豊科6000番地　　TEL 0263-71-2000
発行年月日	西暦2020年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
安曇野市内 所在遺跡	長野県安曇野市	20220	—	—	—	—	—	—
なかじま遺跡	長野県安曇野市 堀金三田1017番	20220	4 －20	36° 17’ 16”	137° 51’ 43”	20180626 ～ 20180626	9 ㎡	個人住宅
明科遺跡群 栄　町 遺跡	長野県安曇野市 明科中川手4178番１ 外７筆	20220	5 －411	36° 21’ 24”	137° 55’ 52”	20180710 ～ 20180710	9 ㎡	個人住宅
明科遺跡群 栄　町 遺跡	長野県安曇野市 明科中川手4004番７ 外１筆	20220	5 －411	36° 21’ 23”	137° 55’ 52”	20180723 ～ 20180723	1 ㎡	道路
新 林 遺跡	長野県安曇野市 穂高牧1904番２	20220	2 －25	36° 19’ 40”	137° 50’ 15”	20180921 ～ 20180921	12㎡	駐車場
栗の木下遺跡	長野県安曇野市 三郷温2176番１	20220	3 －18	36° 15’ 23”	137° 53’ 00”	20180926 ～ 20180926	13㎡	宅地造成
光　遺跡群 北村遺跡	長野県安曇野市 明科光92番１ 外１筆	20220	5 －301	36° 19’ 57”	137° 55’ 40”	20181016 ～ 20181016	4 ㎡	個人住宅
光　遺跡群 北村遺跡	長野県安曇野市 明科光６番１	20220	5 －301	36° 20’ 00”	137° 55’ 43”	20181018 ～ 20181018	4 ㎡	個人住宅
柏 原遺跡	長野県安曇野市 穂高 柏 原1787番２	20220	2 －57	36° 19’ 35”	137° 53’ 08”	20181129 ～ 20181129	2 ㎡	宅地造成
等々力町 巾上巾下遺跡	長野県安曇野市 穂高4614番４	20220	2 －35	36° 20’ 32”	137° 53’ 18”	20181203 ～ 20181203	15㎡	工場
明科遺跡群 栄　町 遺跡	長野県安曇野市 明科中川手3991番11	20220	5 －411	36° 21’ 21”	137° 55’ 52”	20181225 ～ 20181225	7 ㎡	道路
小瀬幅遺跡	長野県安曇野市 豊科田沢4837番３ 外３筆	20220	1 －20	36° 18’ 30”	137° 56’ 14”	20181227 ～ 20181227	1 ㎡	ガス・水道・ 電気等

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
おっぽりいせき 追堀遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたか 穂高1583番１ 外１筆	20220	２－45	36° 19’ 40”	137° 53’ 23”	20190125 ～ 20190125	５㎡	宅地造成
ふじつかいせき 藤塚遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたか 穂高6764番３ 外１筆	20220	２－38	36° 19’ 57”	137° 53’ 15”	20190221 ～ 20190222	５㎡	駐車場

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
なかじま遺跡	集落跡	縄文時代 古代	なし	微細土器（時期不明）、剥片	遺構確認せず。
明科遺跡群 栄町遺跡	集落跡	古代	なし	なし	埋蔵文化財を確認せず。
明科遺跡群 栄町遺跡	集落跡	古代	なし	須恵器小破片	遺構確認せず。
新林遺跡	集落跡	縄文時代	なし	なし	埋蔵文化財を確認せず。
栗の木下遺跡	散布地	平安時代	なし	なし	埋蔵文化財を確認せず。
光遺跡群 北村遺跡	集落跡	縄文時代 ～近世	なし	なし	埋蔵文化財を確認せず。
光遺跡群 北村遺跡	集落跡	縄文時代 ～近世	なし	なし	埋蔵文化財を確認せず。
柏原遺跡	集落跡	古墳時代 ～平安時代	なし	なし	既出土器を報告。
等々力町巾上 巾下遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代 平安時代	なし	なし	埋蔵文化財を確認せず。
明科遺跡群 栄町遺跡	集落跡	古代	なし	なし	地表下40cm に火災層。 地表下80cm に竹稈。
小瀬幅遺跡	散布地	弥生時代 平安時代	なし	土師器 （平安時代）	電柱工事で土師器羽釜が出土。
追堀遺跡	集落跡	平安時代	不明	土師器、須恵器 （平安時代）	上水道管敷設掘削で、平安時代の土師器・須恵器が出土。
藤塚遺跡	集落跡	古墳時代 平安時代	竪穴建物跡１	土師器、須恵器 （時期不明）	駐車場造成で竪穴建物跡を検出、現状保存。

要　約

平成30年度に長野県安曇野市内で実施した埋蔵文化財保護措置及びこれに伴う試掘・立会調査の結果を掲載した。発掘調査等の総数は全180件で、このうち179件を安曇野市教育委員会が主体となって実施した。なお、この内訳は発掘調査２件、試掘10件、工事立会121件、慎重工事46件である。

試掘成果については、10件を掲載した。なかじま遺跡では、微細土器片及び剥片が少量出土したが、明確な遺構は確認していない。明科遺跡群栄町遺跡でも、第２章３に掲載した試掘で須恵器小破片が出土したが、遺構は確認していない。これ以外の８件の試掘では、埋蔵文化財は確認していない。

この他、遺物が出土した工事立会の成果を３件掲載した。小瀬幅遺跡は、電柱工事の面積狭小な掘削で平安時代の羽釜破片が複数出土した。追堀遺跡では、宅地造成にかかる上下水道敷設の掘削で平安時代の土師器等が多量に出土した。掘削幅が狭小であるため、遺構詳細は確認できていない。藤塚遺跡では、駐車場造成にかかるスロープ設置箇所で竪穴建物跡を検出した。このため、施工者と保護協議を実施し、工事での掘削深度を浅くして遺構を現状保存することとした。

安曇野市の埋蔵文化財第19集
平成30年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書
発行　令和２年（2020）３月31日
安曇野市教育委員会
〒399-8281　長野県安曇野市豊科6000番地
電話0263-71-2000
編集　安曇野市教育委員会
印刷　電算印刷株式会社